

基 本 計 画 書

基 本 計 画 書									
事 項		記 入 欄						備 考	
計 画 の 区 分		学部設置							
フ リ ガ ナ 設 置 者		コリカタ 信 トウジン ヤマガチ 信 ト 国立大学法人 山口大学							
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称		ヤマガチ 信 ト 山口大学 (Yamaguchi University)							
大 学 本 部 の 位 置		山口県山口市吉田1677番地1							
大 学 の 目 的		本学は、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念に、地域の基幹総合大学及び世界に開かれた教育研究機関として、たゆまぬ研究及び社会活動並びにそれらの成果に立脚した教育を実践し、地域に生き、世界に羽ばたく人材を育成することを目的とする。（国立大学法人山口大学学則第3条 抜粋）							
新 設 学 部 等 の 目 的		情報専門技術に関する知識と技能、学際的な素養と人間中心の視点を備え、新たな社会課題を発見し、先進的な情報処理技術と複眼的視野で課題解決や価値創造に挑戦する強い意欲と思考力を有する先端IT人材を養成することを目的とする。							
新 設 学 部 等 の 概 要	新 設 学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位	学位の分野	開設時期及び 開設年次	所在地
	情報学部 [Faculty of Informatics]	年	人	年次 人	人	学士 (情報学) [Bachelor of Informatics]	工学関係	令和8年4月 第1年次 令和10年4月 第3年次	山口県宇部市常盤台2丁目16番1号
	情報学科 [Department of Informatics]	4	120	3年次 10	500				
	計		120	3年次 10	500				
同一設置者内における変更 状況 (定員の移行、 名称の変更等)		工学部 創成工学科 (355) (3年次編入学定員) (10) (令和7年7月届出) 建築学科 (55) (令和7年7月届出) 機械工学科 (△90) (3年次編入学定員) (△5) 社会建設工学科 (△80) 応用化学科 (△90) 電気電子工学科 (△80) (3年次編入学定員) (△5) 知能情報工学科 (△80) (3年次編入学定員) (△10) 感性デザイン工学科 (△55) 循環環境工学科 (△55) 令和8年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和10年4月学生募集停止)							
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数						卒業要件単位数	
	情報学部 情報学科	講義	演習	実験・実習	計	126単位			
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の 教員 (助手を除く)	
新 設 分	情報学部 情報学科	人	人	人	人	人	人	人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	9 (9)	0 (0)	7 (7)	24 (24)	0 (0)	60 (60)	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	8 (8)	9 (9)	0 (0)	7 (7)	24 (24)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計(a～d)	8 (8)	9 (9)	0 (0)	7 (7)	24 (24)			
	工学部 創成工学科	32 (32)	30 (30)	8 (8)	15 (15)	85 (85)	1 (1)	122 (122)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	32 (32)	30 (30)	8 (8)	15 (15)	85 (85)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	32 (32)	30 (30)	8 (8)	15 (15)	85 (85)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計(a～d)	32 (32)	30 (30)	8 (8)	15 (15)	85 (85)				

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 12人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 13人

令和7年7月届出済み

既 設 分	建築学科	5 (5)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	76 (76)	大学設置基準別表第一に定める基幹 教員数の四分の三の数 6人 令和7年7月届出済み	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (10)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	5 (5)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (10)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	5 (5)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (10)				
	計	45 (45)	43 (43)	9 (9)	22 (22)	119 (119)	1 (1)	- (-)		
	人文学部 人文学科	22 (22)	14 (14)	5 (5)	0 (0)	41 (41)	0 (0)	106 (106)		大学設置基準別表第一に定める基幹 教員数の四分の三の数 9人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	22 (22)	14 (14)	5 (5)	0 (0)	41 (41)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	22 (22)	14 (14)	5 (5)	0 (0)	41 (41)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	22 (22)	14 (14)	5 (5)	0 (0)	41 (41)				
	教育学部 学校教育教員養成課程	35 (35)	24 (24)	15 (15)	0 (0)	74 (74)	0 (0)	222 (222)	大学設置基準別表第一に定める基幹 教員数の四分の三の数 9人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	35 (35)	24 (24)	15 (15)	0 (0)	74 (74)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	35 (35)	24 (24)	15 (15)	0 (0)	74 (74)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	35 (35)	24 (24)	15 (15)	0 (0)	74 (74)					
経済学部 経済学科	10 (10)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	103 (103)	大学設置基準別表第一に定める基幹 教員数の四分の三の数 8人		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	20 (20)					
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計（a～b）	10 (10)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	20 (20)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）	10 (10)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	20 (20)					
経営学科	8 (8)	11 (11)	3 (3)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	113 (113)		大学設置基準別表第一に定める基幹 教員数の四分の三の数 9人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	11 (11)	3 (3)	0 (0)	22 (22)					
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計（a～b）	8 (8)	11 (11)	3 (3)	0 (0)	22 (22)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）	8 (8)	11 (11)	3 (3)	0 (0)	22 (22)					

観光政策学科						6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	91 (91)	大学設置基準別表第一に定める基幹 教員数の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）						6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
理学部 数理科学科						4 (4)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	96 (96)	大学設置基準別表第一に定める基幹 教員数の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						4 (4)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	13 (13)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）						4 (4)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	13 (13)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						4 (4)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	13 (13)			
物理・情報科学科						7 (7)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	18 (18)	0 (0)	106 (106)	大学設置基準別表第一に定める基幹 教員数の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						7 (7)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	18 (18)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）						7 (7)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	18 (18)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						7 (7)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	18 (18)			
化学科						4 (4)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	100 (100)	大学設置基準別表第一に定める基幹 教員数の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						4 (4)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	11 (11)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）						4 (4)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	11 (11)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						4 (4)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	11 (11)			
生物学科						4 (4)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	108 (108)	大学設置基準別表第一に定める基幹 教員数の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						4 (4)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	11 (11)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）						4 (4)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	11 (11)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						4 (4)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	11 (11)			

地球圏システム科学科						5 (5)	1 (1)	3 (3)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	104 (104)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの						5 (5)	1 (1)	3 (3)	2 (2)	11 (11)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）						5 (5)	1 (1)	3 (3)	2 (2)	11 (11)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						5 (5)	1 (1)	3 (3)	2 (2)	11 (11)			
医学部 医学科						43 (43)	48 (48)	42 (42)	60 (60)	193 (193)	0 (0)	89 (89)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 105人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの						43 (43)	48 (48)	42 (42)	60 (60)	193 (193)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）						43 (43)	48 (48)	42 (42)	60 (60)	193 (193)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						43 (43)	48 (48)	42 (42)	60 (60)	193 (193)			
保健学科						18 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	3 (3)	138 (138)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 11人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの						18 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	18 (18)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）						18 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	18 (18)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						18 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	18 (18)			
農学部 生物資源環境科学科						6 (6)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	16 (16)	0 (0)	99 (99)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの						6 (6)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	16 (16)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）						6 (6)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	16 (16)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						6 (6)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	16 (16)			
生物機能科学科						10 (10)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	16 (16)	0 (0)	90 (90)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの						10 (10)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	16 (16)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）						10 (10)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	16 (16)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						10 (10)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	16 (16)			

共同獣医学部 共同獣医学科						16 (16)	13 (13)	0 (0)	12 (12)	41 (41)	0 (0)	93 (93)	大学設置基準別表第一に定める基幹 教員数の四分の三の数 11人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						16 (16)	13 (13)	0 (0)	12 (12)	41 (41)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）						16 (16)	13 (13)	0 (0)	12 (12)	41 (41)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						16 (16)	13 (13)	0 (0)	12 (12)	41 (41)			
国際総合科学部 国際総合科学科						11 (11)	10 (10)	8 (8)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	93 (93)	大学設置基準別表第一に定める基幹 教員数の四分の三の数 11人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						11 (11)	10 (10)	8 (8)	0 (0)	29 (29)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）						11 (11)	10 (10)	8 (8)	0 (0)	29 (29)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						11 (11)	10 (10)	8 (8)	0 (0)	29 (29)			
ひと・まち未来共創学環						11 (11)	12 (12)	6 (6)	1 (1)	30 (30)	0 (0)	79 (79)	大学設置基準別表第一に定める基幹 教員数の四分の三の数 9人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						11 (11)	12 (12)	6 (6)	1 (1)	30 (30)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）						11 (11)	12 (12)	6 (6)	1 (1)	30 (30)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						11 (11)	12 (12)	6 (6)	1 (1)	30 (30)			
計						209 (209)	163 (163)	87 (87)	91 (91)	550 (550)	3 (3)	- (-)	
合 計						254 (254)	206 (206)	96 (96)	113 (113)	669 (669)	4 (4)	- (-)	
職 種						専 属			そ の 他			計	
事 務 職 員						人 449 (449)			人 404 (404)			人 853 (853)	
技 術 職 員						1,248 (1,248)			157 (157)			1,405 (1,405)	
図 書 館 職 員						8 (8)			0 (0)			8 (8)	
そ の 他 の 職 員						146 (146)			108 (108)			254 (254)	
指 導 補 助 者						0 (0)			0 (0)			0 (0)	
計						1,851 (1,851)			669 (669)			2,520 (2,520)	
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
	校 舎 敷 地		514,630㎡		0㎡		0㎡		514,630㎡				
	そ の 他		456,441㎡		0㎡		0㎡		456,441㎡				
	合 計		971,071㎡		0㎡		0㎡		971,071㎡				
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
			216,641㎡		0㎡		0㎡		216,641㎡				
			(216,641㎡)		(0㎡)		(0㎡)		(216,641㎡)				
教室・教員研究室			教室		1,736室		教員研究室		24室		大学全体		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		機械・器具		標本		
			冊		種		種		点		点		
	情報学部		1,658,064 [466,837] (1,658,064 [466,837])		4,404 [2,433] (4,404 [2,433])		39,579 [15,458] (39,579 [15,458])		7,171 [5,513] (7,171 [5,513])		110 (110)		
	計		1,658,064 [466,837] (1,658,064 [466,837])		4,404 [2,433] (4,404 [2,433])		39,579 [15,458] (39,579 [15,458])		7,171 [5,513] (7,171 [5,513])		110 (110)		
スポーツ施設等			スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		大学全体				
			0㎡		0㎡				13,252㎡				

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	国費 (運営費交付金)	
		教員 1 人当り研究費等									
		共同研究費等									
		図書購入費									
		設備購入費									
	学生 1 人当り 納付金			第 1 年次 千円	第 2 年次 千円	第 3 年次 千円	第 4 年次 千円	第 5 年次 千円	第 6 年次 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要											
既設大学等の状況	大学等の名称		山口大学								【 】はひと・まち未来共創学環（学部等連係課程実施基本組織等）への拠出数（内数）
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所 在 地		
	【 学 部 】 人文学部	年	人	年次人	人		倍				
	人文学科	4	185	－	740	学士(文学)	1.06 ≪1.02≫	平成28年度	山口県山口市吉田1677番地1		
	教育学部						1.06 ≪1.02≫				
	学校教育教員養成課程	4	155	－	695	学士(教育学)	1.05 ≪1.04≫	平成10年度	山口県山口市吉田1677番地1		
	経済学部						1.05 ≪1.04≫				
	経済学科	4	130 【5】	－	520 【5】	学士(経済学)	1.05 ≪1.01≫	昭和24年度	山口県山口市吉田1677番地1		
	経営学科	4	165	－	660	学士(経済学)	1.07 ≪1.01≫	昭和24年度			
	観光政策学科	4	50 【10】	－	200 【10】	学士(経済学)	1.02 ≪1.01≫	平成17年度			
	理学部						1.10 ≪1.01≫				
	数理科学科	4	50	－	200	学士(理学)	1.06 ≪0.99≫	平成7年度	山口県山口市吉田1677番地1		
	物理・情報科学科	4	60	－	240	学士(理学)	1.05 ≪1.00≫	平成18年度			
	化学科	4	40	－	160	学士(理学)	1.10 ≪0.99≫	令和3年度			
	生物学科	4	40	－	160	学士(理学)	1.04 ≪0.98≫	令和3年度			
	地球圏システム科学科	4	30	－	120	学士(理学)	1.00	平成18年度			
	医学部						1.10 ≪1.00≫				
	医学科	6	109	2年次10	698	学士(医学)	1.01 ≪0.99≫	昭和39年度	山口県宇部市南小串1丁目1番1号		
	保健学科	4	120	－	480	学士(看護学、保健学)	1.01 ≪0.99≫	平成12年度			
	工学部						1.01 ≪1.00≫				
	機械工学科	4	90	3年次5	370	学士(工学)	1.08 ≪1.02≫	平成2年度	山口県宇部市常盤台2丁目16番1号		
	社会建設工学科	4	80	－	320	学士(工学)	1.09 ≪1.03≫	平成2年度			
	応用化学科	4	90	－	360	学士(工学)	1.07 ≪1.01≫	平成19年度			
	電気電子工学科	4	80	3年次5	330	学士(工学)	1.10 ≪0.99≫	平成2年度			
	知能情報工学科	4	80	3年次10	340	学士(工学)	1.08 ≪1.02≫	平成19年度			
	感性デザイン工学科	4	55	－	220	学士(工学)	1.04 ≪0.99≫	平成8年度			
	循環環境工学科	4	55	－	220	学士(工学)	1.14 ≪1.07≫	平成19年度			
	農学部						1.08 ≪1.05≫				
	生物資源環境科学科	4	50	－	200	学士(農学)	1.07 ≪1.03≫	平成13年度	山口県山口市吉田1677番地1		
	生物機能科学科	4	50	－	200	学士(農学)	1.05 ≪1.04≫	平成13年度			
	共同獣医学部						1.08 ≪1.03≫				
獣医学科	6	－	－	－	学士(獣医学)	1.01	平成24年度	山口県山口市吉田1677番地1			
共同獣医学科	6	30	－	60	学士(獣医学)	－	令和6年度				

令和7年度入学定員減（25人）

【 】はひと・まち未来共創学環（学部等連係課程実施基本組織等）への拠出数（内数）

令和7年度入学定員増（19人）

令和6年度より学生募集停止

令和7年度入学定員減 (25人)

【】はひと・まち未来共創学環 (学部等連係課程実施基本組織等) への拠出数 (内数)

令和7年度入学定員増 (19人)

令和6年度より学生募集停止

国際総合科学部						1.09 ≪1.04≫		山口県山口市吉田 1677番地1	
国際総合科学科	4	125 【25】	—	425 【25】	学士(学術)	1.09 ≪1.04≫	平成27年度		令和7年度入学生定員増(25人) 【】はひと・まち未来共創学環(学部等連係課程実施基本組織等)への提出数(内数)
ひと・まち未来共創学環	4	40	—	40	学士(学術)	—	令和7年度	山口県山口市吉田 1677番地1	ひと・まち未来共創学環の収容定員は、経済学部及び国際総合科学部の定員の内数とする。
【大 学 院】									
人間社会科学研究科								山口県山口市吉田 1677番地1	
人文学専攻	2	7	—	7	修士(文学)	0.71	令和7年度		
臨床心理学専攻	2	6	—	6	修士(心理学)	0.83	令和7年度		
経済学・経営学専攻	2	22	—	22	修士(経済学)	0.45	令和7年度		
共創科学専攻	2	6	—	6	修士(学術)	1.00	令和7年度		
人文学研究科								山口県山口市吉田 1677番地1	令和7年度より学生募集停止
人文学専攻	2	—	—	—	修士(文学)	—	平成28年度		
教育学研究科								山口県山口市吉田 1677番地1	
学校臨床心理学専攻	2	—	—	—	修士(教育学)	—	令和元年度		令和7年度より学生募集停止
教職実践高度化専攻	2	28	—	56	教職修士(専門職)	0.69	令和元年度		
経済学研究科								山口県山口市吉田 1677番地1	
経済学専攻	2	—	—	—	修士(経済学)	—	昭和50年度		令和7年度より学生募集停止
企業経営専攻	2	—	—	—	修士(経済学)	—	平成7年度		令和7年度より学生募集停止
医学系研究科								山口県宇部市南小串 1丁目1番1号	
(一貫制博士課程)									
医学専攻	4	33	—	132	博士(医学)	1.12	平成28年度		
(博士前期課程)									
保健学専攻	2	12	—	24	修士(保健学)	1.20	平成17年度		
(博士後期課程)									
保健学専攻	3	5	—	15	博士(保健学)	1.40	平成19年度		
創成科学研究科									
(修士課程)						0.58		山口県山口市吉田 1677番地1	
山口大学・カセサート大学 国際連携農学生命科学専攻	2	6	—	12	修士(農学、生命科学)	0.58	令和2年度		
(博士前期課程)						1.03			
基盤科学系専攻	2	38	—	76	修士(理学)	0.92	平成28年度	山口県山口市吉田 1677番地1	
地球圏生命物質科学系専攻	2	42	—	84	修士(理学)	1.04	平成28年度		
機械工学系専攻	2	60	—	120	修士(工学)	1.04	平成28年度	山口県宇部市常盤台 2丁目16番1号	
建設環境系専攻	2	74	—	148	修士(工学、学術)	0.87	平成28年度		
化学系専攻	2	83	—	166	修士(工学、学術)	1.09	平成28年度		
電気電子情報系専攻	2	107	—	214	修士(工学)	1.13	平成28年度		
農学系専攻	2	36	—	72	修士(農学、生命科学)	1.01	平成28年度	山口県山口市吉田 1677番地1	
(博士後期課程)						0.95			
自然科学系専攻	3	7	—	21	博士(理学、学術)	0.85	平成28年度	山口県山口市吉田 1677番地1	
システム・デザイン工学系専攻	3	10	—	30	博士(工学、学術)	1.26	平成28年度	山口県宇部市常盤台 2丁目16番1号	
環境共生系専攻	3	12	—	36	博士(工学、学術)	1.08	平成28年度		
物質工学系専攻	3	8	—	24	博士(工学、学術)	0.54	平成28年度		
ライフサイエンス系専攻	3	7	—	21	博士(医工学、生命科学、学術)	0.85	平成28年度		

東アジア研究科 東アジア専攻	3	10	—	30	博士(学術)	1.16	平成13年度	山口県山口市吉田1677番地1
技術経営研究科 技術経営専攻	2	15	—	30	技術経営修士(専門職)	1.33	平成17年度	山口県宇部市常盤台2丁目16番1号
共同獣医学研究科 獣医学専攻	4	6	—	24	博士(獣医学)	1.91	平成30年度	山口大学 山口県山口市吉田1677番地1 鹿児島大学 鹿児島県鹿児島市郡元1丁目21番24号
附属施設の概要	名称：図書館 所在地：山口市吉田1677番地1、宇部市南小串1丁目1番地1、宇部市常盤台2丁目16番地1 規模等：12,835㎡ 設置年月：昭和24年5月1日 目的：本学の理念に基づいた教育研究に必要な図書館資料を収集、整理及び提供するとともに、必要とする学術情報を提供し、主として本学の学生及び職員の利用に供することを目的とする。 名称：附属学校 目的：学校教育法（昭和22年法律第26号）その他関係法令に規定する教育又は保育を施し、かつ、教育学部の教育計画に従い、教育の理論及び実践に関する研究、実証並びに学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。 ○教育学部附属山口小学校 所在地：山口市白石3丁目1番地1 規模等：4,513㎡ 設置年月：昭和24年5月31日 ○教育学部附属山口中学校 所在地：山口市白石1丁目9番地1 規模等：6,011㎡ 設置年月：昭和24年5月31日 ○教育学部附属光義務教育学校 所在地：光市室積8丁目4番地1 規模等：10,354㎡ 設置年月：令和7年4月1日 ○教育学部附属特別支援学校 所在地：山口市吉田3003 規模等：3,539㎡ 設置年月：昭和54年4月1日 ○教育学部附属幼稚園 所在地：山口市白石3丁目1番地2 規模等：884㎡ 設置年月：昭和41年4月1日 名称：医学部附属病院 所在地：宇部市南小串1丁目1番1号 規模等：99,144㎡ 設置年月：昭和42年6月1日 目的：患者の診療を通じて、医学の教育及び研究を行うことを目的とする。 名称：工学部附属ものづくり創成センター 所在地：宇部市常盤台2丁目16番地1 規模等：1,032㎡ 設置年月：平成15年4月1日 目的：ものづくりを通じて感性の涵養、創造性、独創性及び問題解決能力を育成するため、創成工学教育に関する教育プログラムの開発・実践を行うとともに、ものづくり基盤を推進するための技術教育を行うことを目的とする。 名称：農学部附属農場 所在地：山口市吉田1677番地1 規模等：3,108㎡ 設置年月：昭和24年11月1日 目的：農学に関する実証的な研究及び学生の実験、実習に資することを目的とする。 名称：共同獣医学部附属動物医療センター 所在地：山口市吉田1677番地1 規模等：2,115㎡ 設置年月：昭和28年7月1日 目的：獣医学の臨床教育及び学術研究の目的をもって動物の診療を行う。							

国立大学法人山口大学 設置申請に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
山口大学				山口大学				
人文学部				人文学部				
人文学科	185		740	人文学科	185		740	
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	155		620	学校教育教員養成課程	155		620	
経済学部				経済学部				
経済学科	130		520	経済学科	130		520	
	【5】		【20】		【5】		【20】	
経営学科	165		660	経営学科	165		660	
観光政策学科	50		200	観光政策学科	50		200	
	【10】		【40】		【10】		【40】	
理学部				理学部				
数理科学科	50		200	数理科学科	50		200	
物理・情報科学科	60		240	物理・情報科学科	60		240	
化学科	40		160	化学科	40		160	
生物学科	40		160	生物学科	40		160	
地球圏システム科学科	30		120	地球圏システム科学科	30		120	
医学部		2年次		医学部		2年次		
医学科	109	10	698	医学科	90	10	590	定員変更（△19）
保健学科	120		480	保健学科	120		480	
工学部		3年次		工学部		3年次		
機械工学科	90	5	370	創成工学科	355	10	1,440	学部の学科の設置（届出）
社会建設工学科	80		320	建築学科	55		220	学部の学科の設置（届出）
応用化学科	90		360					
		3年次		情報学部		3年次		
電気電子工学科	80	5	330	情報学科	120	10	500	学部の設置（届出）
		3年次						
知能情報工学科	80	10	340					
感性デザイン工学科	55		220					
循環環境工学科	55		220					
農学部				農学部				
生物資源環境科学科	50		200	生物資源環境科学科	50		200	
生物機能科学科	50		200	生物機能科学科	50		200	
共同獣医学部				共同獣医学部				
共同獣医学科	30		180	共同獣医学科	30		180	
国際総合科学部				国際総合科学部				
国際総合科学科	125		500	国際総合科学科	125		500	
	【25】		【100】		【25】		【100】	
ひと・まち未来共創学環	【40】		【160】	ひと・まち未来共創学環	【40】		【160】	
計	1,919	10 3年次 20	8,038	計	1,900	10 3年次 20	7,930	
※ひと・まち未来共創学環の収容定員は、経済学部及び国際総合科学部の定員の内数とし、【 】で記載するものは、各学科に係る内数を示す。				※ひと・まち未来共創学環の収容定員は、経済学部及び国際総合科学部の定員の内数とし、【 】で記載するものは、各学科に係る内数を示す。				

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
山口大学大学院				山口大学大学院				
人間社会科学研究科				人間社会科学研究科				
人文科学専攻	7		14	人文科学専攻	7		14	
臨床心理学専攻	6		12	臨床心理学専攻	6		12	
経済学・経営学専攻	22		44	経済学・経営学専攻	22		44	
共創科学専攻	6		12	共創科学専攻	6		12	
教育学研究科				教育学研究科				
教職実践高度化専攻	28		56	教職実践高度化専攻	28		56	
医学系研究科				医学系研究科				
(一貫制博士課程)				(一貫制博士課程)				
医学専攻	33		132	医学専攻	33		132	
(博士前期課程)				(博士前期課程)				
保健学専攻	12		24	保健学専攻	12		24	
(博士後期課程)				(博士後期課程)				
保健学専攻	5		15	保健学専攻	5		15	
創成科学研究科				創成科学研究科				
(修士課程)				(修士課程)				
山口大学・カセサート大学	6		12	山口大学・カセサート大学	6		12	
国際連携農学生命科学専攻				国際連携農学生命科学専攻				
(博士前期課程)				(博士前期課程)				
基盤科学系専攻	38		76	基盤科学系専攻	38		76	
地球圏生命物質科学系専攻	42		84	地球圏生命物質科学系専攻	42		84	
機械工学系専攻	60		120	機械工学系専攻	60		120	
建設環境系専攻	74		148	建設環境系専攻	74		148	
化学系専攻	83		166	化学系専攻	83		166	
電気電子情報系専攻	107		214	電気電子情報系専攻	107		214	
農学系専攻	36		72	農学系専攻	36		72	
(博士後期課程)				(博士後期課程)				
自然科学系専攻	7		21	自然科学系専攻	<u>6</u>		<u>18</u>	定員変更 (△1)
システム・デザイン工学系専攻	10		30	システム・デザイン工学系専攻	10		30	
環境共生系専攻	12		36	環境共生系専攻	12		36	
物質工学系専攻	8		24	物質工学系専攻	<u>5</u>		<u>15</u>	定員変更 (△3)
ライフサイエンス系専攻	7		21	ライフサイエンス系専攻	<u>6</u>		<u>18</u>	定員変更 (△1)
東アジア研究科				東アジア研究科				
東アジア専攻	10		30	東アジア専攻	10		30	
技術経営研究科				技術経営研究科				
技術経営専攻	15		30	技術経営専攻	15		30	
共同獣医学研究科				共同獣医学研究科				
獣医学専攻	6		24	獣医学専攻	<u>10</u>		<u>40</u>	定員変更 (4)
計	640	-	1,417	計	639	-	1,418	

教育課程等の概要																	
(情報学部情報学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員等以外を 外部の教員		
共通教育科目	教養コア	基礎セミナー	1前		2			○			1						
		データ科学と社会Ⅰ	1前①		1			○			1						
		データ科学と社会Ⅱ	1前②		1			○			1						
		知的財産入門	1後④		1			○							1		
		運動健康科学	1前②		1			○							1		
		山口と世界	1後		1			○							1		
		知の広場	1後		1			○							1		
		キャリア教育	2前②		1			○				1					
	英語	英語Ⅰa	1前			2		○							2	いずれか2単位を修得	
		英語Ⅱa	1前			2		○							2		
		英語Ⅰb	1後			2		○							2	いずれか2単位を修得	
		英語Ⅱb	1後			2		○							2		
		英語会話Ⅰa	1前			1			○						4	いずれか1単位を修得	
		英語会話Ⅱa	1前			1			○						4		
		英語会話Ⅰb	1後			1			○						4	いずれか1単位を修得	
		英語会話Ⅱb	1後			1			○						4		
	一般教養	人文教養	1前②		1			○							1		
		歴史学	1前①		1			○							1		
		社会学	1前①		1			○							1		
		社会教養	経済と法1	1前②		1			○							1	
			経済と法2	1後④		1			○							1	
			経済と法3	1後③		1			○							1	
		学際的教養	自然科学1	1前②		1			○							3	オムニバス
			自然科学2	1前①		1			○							3	オムニバス
			人間の発達と育成1	1後③		1			○							1	
		専門基礎	人間の発達と育成2	1後④		1			○							1	
			文化の継承と創造1	1前①		1			○							1	
			文化の継承と創造2	1前②		1			○							1	
			社会と医療	1後⑤		1			○							7	オムニバス
	環境と人間		2前①		1			○			1						
	食と生命		1前②		1			○							1		
	数学Ⅰ		1前		2			○							2		
	数学Ⅱ	1後		2			○							2			
	日本国憲法	1後					2	○						1			
	スポーツ運動実習	1前					1							1			
小計（35科目）	-	-	28	12	3	-	-	3	1	0	0	0	0	49			
専門科目	学科共通科目	応用線形代数Ⅰ	1前	○	2			○		1					1	※演習 共同	
		線形論基礎	1後	○	2			○		1					1	共同	
		応用微分方程式	2前	○	2			○		1					1	※演習 共同	
		情報数学Ⅰ	2前	○	2			○		1					1	共同	
		情報数学Ⅱ	2後	○	2			○			1						
		情報技術概論	1前	○	2			○		1	2					共同	
	情報学基礎	情報デザイン入門	1後	○	2			○		1							
		情報学概論Ⅰ	2前	○	1			○		4	4					オムニバス	
		情報学概論Ⅱ	2前	○	1			○		4	3					オムニバス	
		情報倫理	2後	○	2			○		1							
		データサイエンス技術	1後	○	2			○			1					メディア	
		データサイエンス技術演習	2前	○	2				○		1						
	データサイエンス実践	3後	○	2			○			1		1		1	共同		
	計算機科学	プログラミング基礎	1前	○	2			○			2					共同	
		プログラミングⅠ	1後	○	2			○			1						
		アルゴリズムとデータ構造	2前	○	2			○			1						
		プログラミングⅡ	2前	○	2			○		1							
		プログラミングⅢ	2後			2			○			2				オムニバス 情報システム：必修 人工知能コース：選択必修 データサイエンスコース：選択必修 人間情報学コース：選択必修	
		情報理論	2後			2			○			1				情報システム：必修 人工知能コース：必修 データサイエンスコース：選択必修 人間情報学コース：選択必修	
		数値計算	3前			2			○			1				情報システム：選択必修 人工知能コース：選択必修 データサイエンスコース：選択必修 人間情報学コース：選択	
		デジタル回路	2前			2			○		1					情報システム：選択必修 人工知能コース：選択 データサイエンスコース：選択 人間情報学コース：選択	
		電気電子回路	2前			2			○			1				情報システム：選択必修 人工知能コース：選択 データサイエンスコース：選択 人間情報学コース：選択	
		電子計算機Ⅰ	2前	○	1			○		1							
		オペレーティングシステムⅠ	2後	○	1			○		1							
		情報通信システム	3前			2			○			1				情報システム：選択必修 人工知能コース：選択 データサイエンスコース：選択 人間情報学コース：選択	
		小計（25科目）	-	-	34	12	0	-	-	8	9	0	1	0	5		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置							備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員等以外で教員		
コース 専門科目	システム情報学	電子計算機Ⅱ	2前		1		○			1						情報システムズ：必修 人工知能コース：選択必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：選択必修 人間情報学コース：選択必修	
		オペレーティングシステムⅡ	2後		1		○			1						情報システムズ：必修 人工知能コース：選択必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：選択必修 人間情報学コース：選択必修	
		情報ネットワークⅠ	3前	○	1		○				1					情報システムズ：必修 人工知能コース：必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：選択必修 人間情報学コース：必修	
		情報ネットワークⅡ	3前	○	1		○			1						情報システムズ：必修 人工知能コース：必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：選択必修 人間情報学コース：選択必修	
		データベース	2後	○	2		○			1						情報システムズ：必修 人工知能コース：選択必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：必修 人間情報学コース：選択必修	
		Web開発技術	3後	○	2		○				2					共同 情報システムズ：必修 人工知能コース：選択必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：必修 人間情報学コース：必修	
		システム開発Ⅰ	3前	○	2		○			1						情報システムズ：必修 人工知能コース：選択必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：必修 人間情報学コース：選択必修	
		システム開発Ⅱ	3後		2		○			1						情報システムズ：必修 人工知能コース：選択 ソフトウェアエンジニアリングコース：選択必修 人間情報学コース：選択必修	
		情報セキュリティ	3前	○	2		○			1	1		1			共同 情報システムズ：必修 人工知能コース：必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：選択必修 人間情報学コース：選択必修	
		情報システム実験	3後		2				○		1		2			共同 情報システムズ：必修 人工知能コース：選択必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：選択必修 人間情報学コース：選択	
知能情報学	応用線形代数Ⅱ	2前		2		○				1						情報システムズ：選択必修 人工知能コース：必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：選択 人間情報学コース：選択必修	
	ベイズ統計学	2後		2		○			1							情報システムズ：選択必修 人工知能コース：選択必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：選択必修 人間情報学コース：選択必修	
	ソフトコンピューティング	3前		2		○			1							情報システムズ：選択必修 人工知能コース：必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：選択必修 人間情報学コース：選択必修	
	人工知能	2後	○	2		○			1							情報システムズ：選択必修 人工知能コース：必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：必修 人間情報学コース：選択必修	
	画像処理	3前	○	2		○			1	1			1			共同 情報システムズ：選択必修 人工知能コース：必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：必修 人間情報学コース：必修	
	データ解析	3後		2		○				1						情報システムズ：選択必修 人工知能コース：選択必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：選択必修 人間情報学コース：選択必修	
	最適化技法	3後		2		○			1							情報システムズ：選択必修 人工知能コース：選択必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：選択 人間情報学コース：選択	
	人工知能実験	3後		2				○				2				共同 情報システムズ：選択 人工知能コース：必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：選択 人間情報学コース：選択	
空間情報学	地理空間情報インテリジェンス概論	2前	○	2		○			1							情報システムズ：選択必修 人工知能コース：必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：必修 人間情報学コース：必修	
	GNSS（衛星測位システム）概論及び演習	2前		2		○			1							※演習 情報システムズ：選択 人工知能コース：選択必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：選択必修 人間情報学コース：選択必修	
	リモートセンシング概論	2後		2		○			1							情報システムズ：選択必修 人工知能コース：選択必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：必修 人間情報学コース：選択必修	
	マイクロ波リモートセンシング（SAR）概論	3前		2		○			1							情報システムズ：選択必修 人工知能コース：選択必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：必修 人間情報学コース：選択	
	地理情報システム（GIS）概論	2後		2		○			1							情報システムズ：選択必修 人工知能コース：選択必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：必修 人間情報学コース：選択必修	
	宇宙工学概論	3後		2		○			1							情報システムズ：選択必修 人工知能コース：選択 ソフトウェアエンジニアリングコース：選択必修 人間情報学コース：選択必修	
	ジオ・インテリジェンス実験	3後		2				○	1			3				オムニバス 共同（一部） 情報システムズ：選択 人工知能コース：選択必修 ソフトウェアエンジニアリングコース：必修 人間情報学コース：選択必修	

科目 区分		授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置							備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を含め加えて教員		
人間情報学		マルチメディア基礎	2後			2		○				1	1				共同 情報システムコース：選択必修 人工知能コース：選択必修 ジオ・インテリジェンスコース：選択必修 人間情報学コース：必修	
		マルチメディア応用	3前			2		○				1	1				共同 情報システムコース：選択 人工知能コース：選択 ジオ・インテリジェンスコース：選択 人間情報学コース：必修	
		デザインのための認知科学	2前			2		○				1					情報システムコース：選択 人工知能コース：選択 ジオ・インテリジェンスコース：選択必修 人間情報学コース：必修	
		ヒューマンコンピュータインタラクション	3前			2		○					1				情報システムコース：選択必修 人工知能コース：選択必修 ジオ・インテリジェンスコース：選択必修 人間情報学コース：必修	
		感覚知覚情報学	2後			2		○					1				情報システムコース：選択必修 人工知能コース：選択 ジオ・インテリジェンスコース：選択 人間情報学コース：選択必修	
		音響情報学	3前			2		○					1				情報システムコース：選択必修 人工知能コース：選択必修 ジオ・インテリジェンスコース：選択 人間情報学コース：選択必修	
		感性計測	3後			2		○					1				情報システムコース：選択 人工知能コース：選択 ジオ・インテリジェンスコース：選択 人間情報学コース：選択必修	
		ユーザエクスペリエンス概論	2後			1		○					1				情報システムコース：選択必修 人工知能コース：選択 ジオ・インテリジェンスコース：選択 人間情報学コース：必修	
		社会調査法	3後	○		2		○					1				情報システムコース：選択必修 人工知能コース：選択 ジオ・インテリジェンスコース：選択 人間情報学コース：必修	
		人間情報学実験	3後			2					○		1	4			オムニバス 情報システムコース：選択 人工知能コース：選択必修 ジオ・インテリジェンスコース：選択 人間情報学コース：必修	
	小計（35科目）	-	-	0	65	0	-				8	8	0	6	0	1		
その他		PBL入門	3通			1		○					1					
		情報と職業	4通			2		○				1						
		インターンシップA	3通			1				○		1						
		インターンシップB	3通			2				○		1						
		テクニカルコミュニケーションⅠ（ECE）	2通			2		○								1		
		テクニカルコミュニケーションⅠ（BCG-Ⅰ）	2前			2		○								2		
		テクニカルコミュニケーションⅠ（ESE-Ⅰ）	2前			2		○								1		
		テクニカルコミュニケーションⅡ（BCG-Ⅱ）	2後			2		○								2		
		テクニカルコミュニケーションⅡ（ESE-Ⅱ）	2後			2		○								1		
		テクニカルコミュニケーションⅡ（Academic Writing）	3前			2		○								1		
		情報学日本語	2通後・3通後・4通後			2		○								1		
		テクノロジー×アート	2通後・3通後・4通後			2		○								1		
		ものづくり創成プロジェクト	2通後・3通後・4通後			2				○						1		
		情報処理技術者資格認定	2通後・3通後・4通後			2		○				1						
		特許法	4前			1		○								1		
		国際実習Ⅰa	2通後・3通後・4通後			1				○		1						
		国際実習Ⅰb	2通後・3通後・4通後			2				○		1						
		国際実習Ⅱa	2通後・3通後・4通後			1				○		1						
		国際実習Ⅱb	2通後・3通後・4通後			2				○		1						
	小計（19科目）	-	-	0	33	0	-				2	1	0	0	0	6		
	卒業論文	4通	○	6					○		8	9	0	7	0	0		
	小計（1科目）	-	-	6	0	0	-				8	9	0	7	0	0		
合計（115科目）			-	-	68	122	3	-			8	9	0	7	0	68		
学位又は称号		学士（情報学）			学位又は学科の分野					工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等								
卒業に必要な単位数は、126単位以上とし、以下のとおり修得するものとする。 （履修登録上限：30単位（学期）） 1. 共通教育科目 34単位以上 教養コア系列 9単位 英語系列 6単位 一般教養系列 15単位 専門基礎系列 4単位 2. 専門科目 92単位以上 （1）必修科目 60単位 情報システムコース 学科共通科目 38単位 コース専門科目 16単位 卒業論文 6単位 人工知能コース 学科共通科目 36単位 コース専門科目 18単位 卒業論文 6単位 ジオ・インテリジェンスコース 学科共通科目 34単位 コース専門科目 20単位 卒業論文 6単位 人間情報学コース 学科共通科目 34単位 コース専門科目 20単位 卒業論文 6単位 ※必修科目の単位数は、選択科目のうち備考欄において各コースが必修指定する科目も含めた単位数。 （2）選択科目 32単位以上 選択科目のうち備考欄において各コースが選択必修に指定する科目から22単位以上を修得すること。 この場合、コース専門科目の各コースの主分野以外の分野からそれぞれ6単位以上を修得すること。										1 学年の学期区分				2学期				
										1 学期の授業期間				15週				
										1 時限の授業の標準時間				90分				

教育課程等の概要																
【基礎となる学部等】（工学部知能情報工学科）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（教助手以外原の教員）	
共通教育科目	基礎セミナー	1前		2			○			1						
	データ科学と社会Ⅰ	1前①		1			○									
	データ科学と社会Ⅱ	1前②		1			○					1				
	知的財産入門	1後④		1			○								1	
	運動健康科学	1前②		1			○								1	
	山口と世界	2後		1			○								1	
	知の広場	1後		1			○								1	
	キャリア教育	2前②		1			○			1						
	英語Ⅰa	1前			2		○								2	いずれか2単位を修得
	英語Ⅱa	1前			2		○								2	
	英語Ⅰb	1後			2		○								2	いずれか2単位を修得
	英語Ⅱb	1後			2		○								2	
	英語会話Ⅰa	1前			1				○						4	いずれか1単位を修得
	英語会話Ⅱa	1前			1				○						4	
	英語会話Ⅰb	1後			1				○						4	いずれか1単位を修得
	英語会話Ⅱb	1後			1				○						4	
	人文教養	1前②		1			○								1	
	歴史学	1前①		1			○								1	
	社会学	1前①		1			○								1	
	社会教養	1前②		1			○								1	
	経済と法1	1後④		1			○								1	
	経済と法2	1後④		1			○								1	
	経済と法3	1後③		1			○								1	
	自然科学1	1前②		1			○								3	オムニバス
	自然科学2	1前①		1			○								3	オムニバス
	学際的教養	1後③		1			○								1	オムニバス
	人間の発達と育成1	1後④		1			○								1	
	人間の発達と育成2	1前①		1			○								1	
	文化の継承と創造1	1前②		1			○								1	
	文化の継承と創造2	1後③		1			○								1	
	社会と医療	2前①		1			○			1					7	
	環境と人間 食と生命	1前②		1			○								1	
専門基礎	数学Ⅰ	1前		2			○								2	共同
	数学Ⅱ	1後		2			○								2	
	物理学Ⅰ	1前		2			○			1					1	
	物理学Ⅱ	1後		2			○								1	
	化学Ⅰ	1前			2		○								1	
	化学Ⅱ	1後			2		○								1	
	生物学Ⅰ	1前			2		○								1	
	生物学Ⅱ	1後			2		○								1	
	地球科学Ⅰ	1後			2		○								1	
	地球科学Ⅱ	1後			2		○								1	
	物理学実験B	1後③		1					○				2		6	
	日本国憲法	1後				2	○								1	
	スポーツ運動実習	1前				1			○						1	
	小計（44科目）	-	-	33	24	3	-	-	-	2	0	1	2	0	61	
専門科目	線形代数及び演習	1前		2			○								1	※演習
	確率統計	1後		2			○								1	
	常微分方程式及び演習	2前		2			○								1	
	応用解析Ⅰ	2後		2			○								1	
	応用物理学Ⅰ	3前			2		○								1	
	応用物理学Ⅱ	3後			2		○								1	※演習 共同
	小計（6科目）	-	-	8	4	0	-	-	-	0	0	0	0	0	5	
	情報工学実験及び演習Ⅰ（実習を含む。）	2後	○	2					○		2		2			
	情報工学実験及び演習Ⅱ（実習を含む。）	3前	○	2					○		1		2			
	プログラミングⅠ	1後	○	2			○				1					
	プログラミングⅡ（実習を含む。）	1後	○	2				○			1					
	プログラミングⅡ	2前	○	2			○				1					
	プログラミング演習Ⅰ（実習を含む。）	2前	○	2				○			1		1			
	プログラミングⅢ	2後	○	2			○			1						
	プログラミング演習Ⅲ（実習を含む。）	2後	○	2				○		1						
	アルゴリズムとデータ構造	2後	○	2			○				1					※実習
	オートマトンと言語処理系	3前	○	2			○				1					
	応用情報数学	2前	○	2			○				1					

- 基本計画書 -15-

授業科目の概要				
(情報学部情報学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 コア		<概要> 大学生活にて必要とされる情報リテラシー知識と技術を取得する。また、ロジカルシンキングを基に、自ら考え・判断・表現・発言できる基礎的な能力やIT技術者に必要なITスキルを学ぶ。 <目標> 大学において学ぶ上での、動機付け、目標、手法、および到達レベルの把握 友人、先輩および教職員とのコミュニケーション力の必要性の認識と取得 目標達成のためのPDCAサイクルを含めた行動力の実践的修得	
	基礎セミナー		<概要> 現代ではICTを用いた様々なサービスが生み出され、「超スマート社会」が現実になりつつある。この礎は、広範囲かつ目的に整合したデータの取得と、これらのデータをもとにした問題解決を行う科学的な方法論、すなわちデータサイエンスにある。 この授業では、社会の発展のためにデータサイエンスを学ぶ意義を理解するとともに、その基礎となるデータリテラシー（データを的確に理解し、解釈し、分析する能力）を身に着けることを目標とする。 <目標> ・データサイエンスの概要とそれを学ぶ意義を理解する。 ・データサイエンスの基礎となるデータリテラシーを身に着ける。 ・大学における学習で必要な基本的なツール（ネットワーク、パソコン、各種のソフトウェア（文書作成、表計算、プレゼンテーションのためのソフトウェアを含む））の使い方を習得する。 ・身近な情報源であるネットワーク（学内LAN、インターネット）や図書館による情報検索サービスの利用方法を習得する。	
	データ科学と社会Ⅰ		<概要> この講義では、データサイエンスについての理解を深めるため、数理・情報系の研究者によるデータから新しい知識や事実を得る方法論の解説、情報系企業の技術者やマネージャーによる事業へのデータサイエンス活用事例の紹介、学生の専攻分野を専門とする教員によるデータに基づく研究事例の解説を行う。さらに、情報セキュリティ、情報倫理や法規など、超スマート社会に適応するために必要な事項を説明する。 <目標> ・データサイエンスが社会の発展に役立つこと認識し、その基本的な原理を知る。 ・情報セキュリティや情報倫理、法規を学ぶ重要性を知り、超スマート社会に適応するために必要な作法を会得する。	
	データ科学と社会Ⅱ		<概要> 知的財産は権利の獲得、保護、活用の各局面での無体物としての特性に応じた権利者側のコントロールが必要になります。また、知的財産の受け手側にも、何処に知的財産が存在しどこまで利用できるのかという適切な判断が求められている。本講義では、受講者が知的財産の全体概要を理解するとともに、レポートや論文作成時に必要とする知的財産の知識など、身近な事例をテーマに概念の理解や初歩的な知的財産対応力の形成を図る。 企業で情報機器・システム開発経験を持ち、国際特許を含む多数の登録特許の発明者である教員が、知的財産を活用した企業戦略の考え方について講義する。 <目標> 知的財産についての全体概要と科学技術の役割を理解し、将来あるべき姿について多角的な視点から考察する力を養う。	
	知的財産入門		<概要> この授業では、生活習慣病（成人病）や要介護に影響を及ぼす生活習慣の中で、主に身体活動（運動）を取り上げ、生活習慣病や要介護と身体活動（運動）との関わりや生活習慣病や介護予防を中心とした健康の維持増進のための身体活動（運動）の具体的な実践方法、留意点について解説する。また、健康の維持増進のための身体活動（運動）の具体的な実践方法については、実習も行い理解を深める。 <目標> 生活習慣病や介護予防のための身体活動（運動の意義、重要性について理解する。また、生活習慣病、介護予防を中心とした健康の維持増進のための身体活動（運動）が具体的に実践できるよう、その方法に関する基本的な知識や実践方法を身につける。さらに、健康の維持増進のために運動を行う際の留意点についての知識を身につける。	
	運動健康科学		<概要> 本授業はSTEAM教育の最初の段階として、前半は山口について大きく理系と文系的な視点からそれぞれの所属の学部に合わせて情報を収集する。後半はいろんな専門分野にまたがる形でグループを再編成し、そのグループで山口の自然と文化・社会の両方を活かした観光プランを作成する。授業ではグループでの情報収集、討論、まとめ、発表に重点を置く。 <目標> 山口県の文化・社会、自然など地域の特色を知り、地域社会に貢献する能力や態度を身につけるとともに、それらを将来実際に地域や国際環境で活かす力を養う。 理系・文系の様々な知識を総合した形で一つものを作り上げるという取り組みの試みを体験する。	
	山口と世界		<概要> 大学での学問、社会、地域のかかわり、グローバルマインドを育むことを通して、社会での働き方のほか、大学生活を有意義に過ごすための考え方と方法論を学ぶ。また、本学の学生が学内外の講師の職業・学問分野の概要を知ることにより、本学で学ぶ意義を理解し、本学の学生としての誇りと自覚を培う。この授業を契機として、自身の課題を主体的に発見し、解決する姿勢を培う。また卒業までに達成すべき自らの目的、目標を立てるとともに、大学生活の中で、一つでも多くのこと発見し、はぐくみ、かたちにすることが望まれる。 <目標> 自己の在り方・生き方を考え、卒業後に社会的・職業的自立を図るためにDXも含めた必要な基礎的知識や態度を身につけるとともに、学内外の講師が語るそれぞれの専門領域の社会的位置づけや講師の人間としての生き方を参考にして、これからの大学生活の在り方を含めた自らのキャリアデザインを考える。	
	知の広場		<概要> キャリアを学ぶことにより、将来への希望を見出すとともに、学業への意欲を高めることを目的とする。卒業後の進路を意識し、就職活動の準備に役立つ内容を含む。 <目標> 自分のキャリアを考えることの重要性を理解し、その方法論習得する。 働く前に知っておくべき経済・社会・企業に関する基礎知識を習得する。 社会人基礎力の重要性を理解し、高めるための方法を学び、実践への意識を高める。 キャリア意識を高め、学業ならびに就職活動への意欲を増す。	
	キャリア教育			

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
英語		英語Ⅰa		<概要> 英語の基礎的なリーディング能力とライティング能力を身に付ける。 <目標> ・生活、趣味、スポーツなどの日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 ・聞いたり読んだりした内容（生活や文化の紹介などの説明や物語）であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを書くことができる。	
		英語Ⅱa		<概要> 中・上級レベルのリーディング能力とライティング能力を身に付ける。 <目標> ・学習を目的に書かれた新聞や雑誌の記事を1分間に150語程度以上の速さで読み、内容の要点を理解することができる。 ・馴染みのある話題、または個人的興味のある話題であれば、経験、出来事などを簡単な英語で記述したり、意見や計画に対して、説明や理由を述べることができる。	
		英語Ⅰb		<概要> 英語の基礎的なリーディング能力とライティング能力を身に付ける。 <目標> ・生活、趣味、スポーツなどの日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 ・聞いたり読んだりした内容（生活や文化の紹介などの説明や物語）であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを書くことができる。	
		英語Ⅱb		<概要> 中・上級レベルのリーディング能力とライティング能力を身に付ける。 <目標> ・学習を目的に書かれた新聞や雑誌の記事を1分間に150語程度以上の速さで読み、内容の要点を理解することができる。 ・馴染みのある話題、または個人的興味のある話題であれば、経験、出来事などを簡単な英語で記述したり、意見や計画に対して、説明や理由を述べることができる。	
		英語会話Ⅰa		<概要> 英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付ける。この授業は知識より英語で実際に話し、聞いて理解する能力（スピーキング&リスニング）の養成を重視する。 <目標> ・鍵となる重要な情報（When、Where、Who、What、Why、Howなど）に関し、簡単な英語を使って情報交換することができる。 ・簡単な英語で意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対など自分の意見を理由とともに伝えることができる。 ・文法的な誤りが多くても、提案・助言・依頼・拒絶など日常会話で必要となる基本的な言語機能表現を使うことができる。 ・予定や計画について簡単な英語で話すことができる。	
		英語会話Ⅱa		<概要> 英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付ける。この授業は知識より英語で実際に話し、聞いて理解する能力（スピーキング&リスニング）の養成を重視する。また、「英語会話Ⅰ」に比べ、より正確で流ちょうな言語使用を重視する。 <目標> ・「英語会話Ⅰ」の目標に加え、以下のことができる。 ・個人的に関心のある具体的なトピックについて、会話を数分間続けることができる。 ・関係詞を用いて、多様な質問をしたり、知らない語をパラフレーズすることができる。 ・鍵となる重要な情報（When、Where、Who、What、Why、Howなど）に関し、比較的スムーズに英語を使って情報交換することができる。 ・相手の発言に対して、質問したり、コメントを述べたり、相づちなどの反応を行うことができる。	
		英語会話Ⅰb		<概要> 英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付ける。この授業は知識より英語で実際に話し、聞いて理解する能力（スピーキング&リスニング）の養成を重視する。 <目標> ・鍵となる重要な情報（When、Where、Who、What、Why、Howなど）に関し、簡単な英語を使って情報交換することができる。 ・簡単な英語で意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対など自分の意見を理由とともに伝えることができる。 ・文法的な誤りが多くても、提案・助言・依頼・拒絶など日常会話で必要となる基本的な言語機能表現を使うことができる。 ・予定や計画について簡単な英語で話すことができる。	
一般教養	人文教養	英語会話Ⅱb		<概要> 英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付ける。この授業は知識より英語で実際に話し、聞いて理解する能力（スピーキング&リスニング）の養成を重視する。また、「英語会話Ⅰ」に比べ、より正確で流ちょうな言語使用を重視する。 <目標> ・「英語会話Ⅰ」の目標に加え、以下のことができる。 ・個人的に関心のある具体的なトピックについて、会話を数分間続けることができる。 ・関係詞を用いて、多様な質問をしたり、知らない語をパラフレーズすることができる。 ・鍵となる重要な情報（When、Where、Who、What、Why、Howなど）に関し、比較的スムーズに英語を使って情報交換することができる。 ・相手の発言に対して、質問したり、コメントを述べたり、相づちなどの反応を行うことができる。	
		哲学		<概要> 哲学とは、私たちの物の見方・考え方の「そもそも」を問う学問。この授業では、価値や道徳に関係する哲学的な問題をいくつか取り上げ、哲学とはどのような学問か、どんな問題があるのかということについて、思想家の言葉をもとに考えていく。 <目標> 哲学・思想・宗教・芸術について基本的知識を身につけ、諸課題を発見・分析・考察する力を養う。	
		歴史学		<概要> 日本考古学における基本的な方法論や研究成果・知識について解説する。その意味では、本講義は「考古学入門」と位置付けられる授業内容となる。今期の講義で、重点的に取り上げるのは考古学の方法の中の型式論である。 <目標> ・考古遺物の研究方法についての知識を習得する。 ・考古学の基本知識を獲得する。 ・考古学の方法論（特に型式論）への理解を深める。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	社会科学	社会学			<概要> 社会学の基礎的知識を習得するとともに、高校生の進路選択に着目して、その現状と課題を把握し、日本社会の構造的変動を検討する。 <目標> 社会や人の関わりに関する社会学の基礎的知識を習得する。 日々のニュースの中から、講義で採り上げる話題や関連がある問題に目を向け、日常生活で個人の行動や意識が何によって規定されているのか等を考察し、社会学的視点で社会問題をとらえて分析する視点を深める。	
		社会教養	経済と法1		<概要> 経済学と心理学が融合した「行動経済学」を学ぶ。 わたしたち人間の行動はそれほど合理的ではなく、よく失敗をする。こうした失敗には、何らかの規則性があります。行動経済学を学ぶことで、人間をより深く理解していく。 <目標> 行動経済学の基礎を学習して、人間の行動を理解する。	
			経済と法2		<概要> 経営学の基礎、特に、経営戦略論で議論されているテーマについて説明する。経営組織論に関連する話題は、独立した項目は設けず、適宜、紹介する。 <目標> 経営戦略論で用いられている「基礎概念」を正しく理解すること。そして、それらの概念を用いて、現実生じている現象を説明できるようになることを目指す。	
			経済と法3		<概要> わたしたちの社会生活と密着した存在である会社という法人企業について、それがどのようなその組織をもっており、どのように活動していくのかということを、それを規制している会社法を通じて学ぶ。 会社法人のなかで最も大きな地位を占めるのは株式会社であつが、本講義ではそればかりではなく、それと対比して他の種類の会社も学んで行く。 <目標> わたしたちの社会生活と密着した存在である会社という法人企業について、それがどのようなその組織をもっており、どのように活動していくのかということを、それを規制している会社法を通じて理解できる。 会社法人のなかで最も大きな地位を占めるのは株式会社であるが、本講義ではそればかりではなく、それと対比して他の種類の会社も理解を深められる。	
	自然教養	自然科学1			<概要> 自然科学は、観察や実験を通して自然に関する知識を蓄積し、それらを体系化し、自然の中にひそむ法則を明らかにしようとするものである。また、現代社会を支える技術は自然科学に基づいている。したがって、自然が関係するさまざまな問題について自分なりに判断するためには、自然科学の基礎知識や考え方を身に付けておくことが不可欠である。この授業では、自然科学の中でも主に数学、物理学、地球科学の3分野の基礎知識や考え方をわかりやすく講義する。 (オムニバス／全8回) (47 元木 業人／4回) 1 ガイダンス 2 物理学および天文学の歴史 3 星間物質の輪廻と宇宙の化学史 8 総括 (46 南出 真／2回) 4,5 数学の考え方 (30 坂口 有人／2回) 6,7 巨大地震とプレート運動 <目標> 自然科学(主として数学、物理学、地球科学)の基礎を学ぶことを通じて、論理的思考力や合理的判断力を身につけ、自らの生活や学習に活かす力を養う。	オムニバス
		自然科学2			<概要> 自然科学は、観察や実験を通して自然に関する知識を蓄積し、それらを体系化し、自然の中にひそむ法則を明らかにしようとするものである。また、現代社会を支える技術は自然科学に基づいている。したがって、自然が関係するさまざまな問題について自分なりに判断するためには、自然科学の基礎知識や考え方を身に付けておくことが不可欠である。この授業では、自然科学の中でも主に生物学と化学の2分野の基礎知識や考え方をわかりやすく講義する。 (オムニバス／全8回) (45 網島 亮／4回) 1 ガイダンス 2, 3 化学に関する教養・基礎 8 総括 (81 鈴木 敦子／1回) 4 化学に関する教養・基礎 (31 三角 修己／3回) 5~7 生物学に関する教養・基礎 <目標> 自然科学(主として生物学、化学)の基礎を学ぶことを通じて、論理的思考力や合理的判断力を身につけ、自らの生活や学習に活かす力を養う。	オムニバス
	学際的教養	人間の発達と育成1			<概要> 行動を分析する心理学である「行動分析学」の視点から、人間(動物も含む)の行動原理について理解し、私たちが抱えるさまざまな問題を解決・改善するための基本的な考え方や留意点等について検討する。なお、原則として毎回の授業は、スライド資料解説、映像資料の視聴と補足説明、受講生によるグループ・ディスカッション、ティーチング・アシスタント(教職大学院生)からの関連コメント、まとめの解説などから構成される。 <目標> ・行動を分析する心理学＝「行動分析学」の考え方の基礎を身につける。 ・日常場面における行動の理解と問題の解決・改善方法の基礎を身につける。 ・行動分析学を含む心理学の社会貢献についていくつかの事例を知る。	
		人間の発達と育成2			<概要> 学問としての心理学に関する基礎的知識の習得を目指す。この科目では、問いのデザインを通して、他者との対話を促進する思考法としての批判的思考のトレーニングやコミュニケーションツールの利用スキルを高める。 <目標> 心理学の根本問題である客観性の問題を理解し、その現代的回答としての社会性の意義を知る。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			文化の継承と創造1		<概要> どのような発想力を高め、問題解決を図ればよいのかについて、具体的な演習を通して学ぶ。学習のベースには、等価変換創造理論を置きますが、創造的思考を発揮、育成することを目的とし、その導入となる。知識・理解よりも、まず体験し、実践してみることに重点を置いた内容である。 <目標> 創造的思考技法を体験的に理解し、実生活や様々な問題場面でこれを活用しようとしている。協働的な活動を通して、他者のアイディアを受容・評価し、さらに自分なりのアイディアに生かすための基礎的姿勢を獲得する。	
			文化の継承と創造2		<概要> 課題探求型の授業であり、主体的な学修をする授業である。山口市周辺には自然、歴史、文化などさまざまな特色がある。山口市のもつ特色のうち、自分が興味のある内容について課題意識をもって友達とグループをつくって現地（山口市内の観光地等）に出向いて調べ、調べたことを発表し、協議する。地域社会の発展に寄与する能力や態度を身につけるとともに、それらの資質を将来に活かす力を養うことがこの授業の目標である。 <目標> 課題探求型の能動的な学修をととして、山口市周辺の自然、歴史、文化など身近な地域の特色を知り、地域社会の発展に寄与する能力や態度を身につけるとともに、それらの資質を将来に活かす力を養う。また、山口県の自然、歴史、文化などについて家庭学習を通して学習し、知識を身に付ける。地域の自然や歴史に興味をもつことができ、また、さまざまな人と関わり、情報を発信したり、人の意見を聞いて議論したりすることのできる社会人としての資質を高めることを目指す。	
			社会と医療		<概要> 保健・医療・医学・福祉の観点から健康問題を総合的に説明する。特に、医学部教員による専門領域を反映した講義を通して深く健康問題を捉える。また、受講生の能動的な学修を促すため、随時、小レポートを課し、保健・医療・医学・福祉の観点から総合的に考察できるようになることに重点を置く。 （オムニバス形式／全8回） （49 鈴木 秀典／1回） 1.【神経のはなし】人間の神経の働きについて学習する （61 今釜 崇／1回） 2.【関節の話】人間の各関節の構造と機能について学習する （62 岡田 直人／1回） 3.【薬のはなし】医薬品について学ぶ （83 城崎 幸介／2回） 4.【ウイルスとワクチン】ウイルスとワクチンについて学ぶ 8.【がんと免疫】がんと免疫の作用について学ぶ （50 平野 靖／1回） 5.【医療情報とAI】急速に発展している人工知能(AI)技術の基礎と臨床応用例について学ぶ （60 安達 圭志／1回） 6.【寄生虫と医療】日本と世界の寄生虫感染について学ぶ （48 佐古田 幸美／1回） 7.【免疫と疾患】免疫学の歴史について学ぶ <目標> 科学としての医学・保健学と、実践としての保健・医療・福祉とが社会の中でどのような意義を持ち、健康についての課題が総合的にどのように捉えられているのかを知り、健康問題に対処する能力や態度を身につけるとともに、その将来あるべき姿について考察する力を養う。	オムニバス
			環境と人間		<概要> 製造業における技術開発業務の経験（勤務経験）を有する教員が、情報技術者として身に付けておくべきプログラミング技術とアセンブリ言語について概説する。 <目標> ・コンピュータ科学基礎の知識を身につける。 ・プログラミングの概要について理解する。 ・CASL2でプログラミングができる。	
			食と生命		<概要> 20世紀後半の産業の発展は我々の生活を著しく豊かにした。しかしその一方で、地球温暖化、大気・水質の汚染、森林や野生生物の減少などの環境問題を引き起こしてきた。食料生産は環境と密接に関係しており、これらの環境問題の原因となるとともに、多大な悪影響も受けている。 本講義では食料生産と環境の関係を多面的に講述する。 <目標> 人間が生きていくために必要な食資源について関心を払い、生命に関して多角的な視点から考察する力を養う。	
	専門基礎	理系基礎	数学Ⅰ		<概要> 微分積分学の学習をする。 微分積分学は理工系学問の基礎であり、内容は多岐にわたるが、この数学Ⅰの講義では、特に1変数関数の微分と積分に関連する概念の理解・様々な計算方法を習得する。 <目標> 1変数の微分積分学の基本的な概念の理解と計算方法を習得すること。 確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。	
			数学Ⅱ		<概要> 数学Ⅰで学んだ1変数関数の微分・積分に関する知識を発展させ、2変数関数の微分（偏微分）と積分（重積分）について講義する。 内容を理解させるとともに、計算方法を習得させる。 <目標> 偏微分と重積分の基本的な概念の理解と、計算方法を習得すること。 確かな基礎力を有する技術者を目指して、数学の基礎力を身につける。 特に数学に関する専門知識、問題解決に応用できる能力を身につける。	
	教職基礎		日本国憲法		<概要> 憲法は、主に統治機構と人権保障の二つの部分から構成されている。本講義では、憲法の基本的知識について説明した上で、日本国憲法の具体的内容、特に憲法上保障される基本的人権について、具体的事例を踏まえながら解説する。 <目標> 日本国憲法に関する基本的知識を習得するとともに、現代社会における様々な人権問題について、憲法の観点から考えて、解答を模索する能力を身につける。	
			スポーツ運動実習		<概要> 陸上競技や器具を使った運動を通して身体の様々な運動の能力を総合的に高めていく。また、正しい筋力トレーニングについても深めていき、健康な身体を作る能力を高めていく。また、経験の差や性差に関わらず運動が行えるよう技能を高めていく。 <目標> 様々な運動の特性を理解し、運動の結果起こる身体への影響を感じ取る。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	学科共通科目	数学基礎	○	<概要> 行列と行列式に関する基本的概念、及び基礎理論について述べる。定義や定理については可能な限り具体例を示しながら説明し、理解が容易になるように努める。 <目標> 理系基礎として、線形代数学の基礎能力を主に計算を通じて身に着ける。 1. 3次元の外積を理解し、平面の方程式などに応用できる。 2. 連立方程式を消去法で解ける。 3. 行基本変形で階段行列に変形し行列の階数を求められる。 4. 行列式の計算が行え、クラメルの公式が使用できる。 5. 逆行列を消去法と余因子行列の2つの方法で求めることが出来る。 6. ベクトル空間や線形写像の抽象的な意味が理解できる。	共同 講義：24時間 演習：6時間
				<概要> 得られたデータはある母集団分布に従う確率変数の一つの実現値とみなし、母集団の特性値(平均や支持率など)について推論する方法(統計的推測)を習得する。 <目標> 不確実な現象を確率変数と確率分布(確率モデル)によって記述することができる。 二項分布や正規分布などの代表的な確率分布について理解を深める。 母集団と標本の関係および標本から求められる推定値には標本誤差が含まれることを理解する。 区間推定の考え方を理解し、データから信頼区間を構成する方法を身に着ける。 仮説検定の考え方を理解する。その上で統計的な課題に対し仮説を立て、データを用いた仮説検定が行える。	共同
				<概要> 工学の様々な分野に現れる、1階及び2階の常微分方程式の解法について学ぶ。 <目標> ・常微分方程式の定義を理解できる。 ・様々な物理現象から常微分方程式を作ることができる。 ・様々な種類の1階常微分方程式を解くことができる。 ・線形常微分方程式の性質を理解し2階線形常微分方程式が解ける。	共同 講義：24時間 演習：6時間
				<概要> フーリエ級数とフーリエ変換および偏微分方程式の解法への応用などを解説する。 <目標> ・様々な関数について、フーリエ級数を計算できる。 ・様々な関数について、フーリエ変換を計算できる。 ・フーリエ解析を用いて代表的な偏微分方程式の解を導くことができる。	共同
				<概要> 情報科学の基礎的な数学的概念である集合・関係・写像・代数・論理・グラフについて講義する。 <目標> ・「記号論理」で用いられる各種の記号に慣れること。 ・「集合」、「写像」、「関係」に関する厳密な定義を会得すること。 ・帰納法や背理法等の証明法を理解すること。 ・再帰アルゴリズム等の応用を認識できること。 ・離散グラフおよび木グラフ、深さ優先探索と幅優先探索について理解すること。	
	情報学基礎	情報技術概論	○	<概要> 導入教育の一環として位置づけられており、本学部生が身につけておくべき情報技術に関する基礎知識を学ぶ。また、情報技術に関わる職業について学ぶと共に、専門職業人として必要な基本知識について学習する。 <目標> ・情報技術の基礎について理解し活用できる。 ・情報技術に関わる職業について理解できる。	共同
				<概要> 情報デザインの基礎概念を学び、様々な情報伝達手段におけるデザインの重要性を理解することを目的とする。情報デザインの歴史、理論、実践的な手法を体系的に学び、現代社会において求められる情報デザインの役割を深く考察する。 <目標> ・情報デザインの基礎概念を説明できる。 ・情報視覚化の手法を用いて、データを効果的に表現できる。 ・情報デザインの歴史と動向を理解し、今後の発展を予測できる。 ・情報デザインが社会に与える影響を分析し、倫理的な観点から考察できる。 ・情報デザインの知識を活かして、様々な問題解決に貢献できる。	
				<概要> システム情報学分野及び知能情報学分野の教員がそれぞれの分野において今後学ぶ内容の概要について説明する。 (オムニバス形式／全8回) (4 福士 将／1回) 1 ガイダンス、コンピュータの基礎と動向 (1 山口 真悟／1回) 2 情報セキュリティの基礎と動向 (2 河村 圭／1回) 3 ITシステムを作るとは (12 井田 悠太／1回) 4 無線通信の基礎と動向 (5 間普 真吾／1回) 5 人工知能(AI)の基礎と動向および研究事例紹介 (15 佐村 俊和／1回) 6 脳の情報処理の仕組みを応用する知的システムの構築と社会課題解決へ向けた取り組み (14 藤田 悠介／1回) 7 画像認識技術の動向とその応用事例の紹介 (17 荒木 徹也／1回) 8 最先端技術を支えるアルゴリズムの応用事例の紹介 <目標> ・システム情報学分野で開講される科目の概要について理解する。 ・知能情報学分野で開講される科目の概要について理解する。	オムニバス

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
				情報学概論Ⅱ	○	<概要> 空間情報学分野及び人間情報学分野の教員がそれぞれの分野において今後学ぶ内容の概要について説明する。 (オムニバス形式／全8回) (3 長井 正彦／2回) 1 ジオ・インテリジェンスコースガイダンス、地理空間分析技術の基礎と動向 4 地理情報システムの基礎と動向 (8 今岡 啓治／1回) 2 衛星測位システムの基礎と動向 (6 大澤 高浩／1回) 3 衛星リモートセンシングの基礎と動向 (7 長 篤志／1回) 5 人間情報学コースガイダンス、マルチメディアの基礎と動向 (11 佐伯 徹郎／1回) 6 音響情報学の基礎と動向 (13 王 元元／1回) 7 ヒューマンコンピュータインタラクションの基礎と動向 (16 相田 紗織／1回) 8 感覚知覚情報学の基礎と動向 <目標> ・空間情報学分野で開講される科目の概要について理解する。 ・人間情報学分野で開講される科目の概要について理解する。	オムニバス
				情報倫理	○	<概要> インターネットを利用する際のルールやマナーとしての情報倫理や技術者倫理を学ぶとともに、実践力を高めるために実際の社会問題に対してロジカルシンキングによる問題解決を演習とする。 <目標> (1) 情報倫理を学び被害者にも加害者にもならない判断力を身につける。 (2) 技術が社会や自然に与える影響を理解する。 (3) 実際の社会問題に対し、ロジカルシンキングにより解決策を立て、その主張を的確に表現することができる。	
		データサイエンス基礎		データサイエンス技術	○	<概要> データサイエンスの基本的概念およびデータ分析の基礎的な技術を身につける。データサイエンスに関連した知識と技術に関する知識を習得し、それを生かした問題発見、解決能力を習得する。具体的には、統計数理基礎、統計的推測・統計的検定、データ分析と可視化、機械学習（教師あり学習、教師なし学習）について学習する。 <目標> データサイエンスの基本的概念を理解している。データ分析を行うための基礎的な技術を身につける。自ら課題を設定し、実社会にあるデータを収集し、データ分析を行い、レポートとして報告できる。	
				データサイエンス技術演習	○	<概要> Pythonを使ったより実践的な演習により、データサイエンス技術の理解を深める。Pythonを使った基本的なプログラムの書き方、データの取得、読み込み、データ操作について習得する。Pythonのライブラリを使用して、確率統計の手法、特に、機械学習（教師あり学習、教師なし学習）の手法の使い方を習得する。グループワークでは、自ら課題を設定し、データの分析やモデルの構築ができる。課題の取り組みの成果を報告する。 <目標> 実社会のデータを分析して活用するために必要となるデータサイエンスの技術を習得する。	
				データサイエンス実践	○	<概要> この授業では、データ分析手法とツールを利用して、ビジネスやシステムの改善などに対する価値を創造するための手法を実践する。主な内容は、データアクセスの基礎、データクレンジング、データ加工、分析モデル及びそのテストや検証、データの可視化と洞察に基づいてインサイトレポートを作成し、ビジネスへの改善を提案することである。 <目標> ・データを処理するアルゴリズムによって、計算時間に差があること、及び、結果に差があることを理解する。 ・実世界の課題に対して問題解決能力を身に付ける。 ・実世界のビッグデータを取り扱うことができる。 ・課題を解決するためにデータ分析モデルの作成や活用ができる。 ・生データから価値を創造し、そのデータに基づいてビジネスまたはシステムの改善が提案できる。	共同
		計算機科学		プログラミング基礎	○	<概要> この講義では、プログラミング言語 Pythonを通じてプログラミングの基本的な概念と技術を学びます。プログラミングの基礎から始め、簡単なプログラムの作成と改良を通じて、プログラミングの実践的なスキルを身につけます。 <目標> プログラミングの基本的な概念と技術の理解と開発環境の構築と利用のスキルを養い、情報処理の流れの設計から、それをプログラミングし、デバッグし、プログラムとして実現するための能力を身につける。	共同
				プログラミングⅠ	○	<概要> この講義では、プログラミング言語 Pythonを通じて、データ処理、ウェブ開発、機械学習などのトピックの開発に繋がる発展的な概念と技術を学びます。 <目標> プログラミングの発展的な概念と技術の理解と高度なライブラリを利用するスキルを養い、実践的な情報処理の流れの設計から、プログラムとして実現するための能力を身につける。	
				アルゴリズムとデータ構造	○	<概要> アルゴリズムを実現する際に不可欠となるデータ構造ならびにソーティングなど基礎的なアルゴリズムを学ぶ。 <目標> ・時間計算量の概念を理解し、代表的なアルゴリズムの時間計算量の求め方を習得する。 ・データ構造がアルゴリズム設計において必要不可欠な構成要素であることを理解し、ソーティングや探索等の代表的なアルゴリズムについて習得する。 ・代表的なアルゴリズムとデータ構造をプログラミング言語を用いて実装する方法を習得し、得られた知見を課題解決のためのプログラム作成に活用する。	
				プログラミングⅡ	○	<概要>オブジェクト指向の諸概念を身につけるとともに、Javaに関する知識と文法を学び、Javaでオブジェクト指向プログラムを作成する方法を習得する。 <目標>1) オブジェクト指向の諸概念とその使い方が分かる。2) Javaの知識と文法が分かる。3) Javaでオブジェクト指向のプログラムを作成できる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			プログラミングⅢ		<概要> プログラミング言語のひとつであるC言語に関する基礎知識・基本文法を学び、プログラムの作成方法を習得する。 (オムニバス形式／全16回) (9 瀧本 浩一／8回) 1～8 コーディングの基本、構造化プログラミング (11 佐伯 徹郎／8回) 9～16 ポインタ・構造体・ファイル処理 <目標> コーディングの基本、構造化プログラミング、ポインタ・構造体・ファイル処理など、C言語に関するプログラミング能力を身に付ける。	オムニバス
			情報理論		<概要> 情報の表現と伝送に関する基礎理論の一つである「情報理論」の基礎を学ぶ。情報源における情報量、エントロピー、通信路における誤りに伴う通信路容量などの概念を把握し、効率良く伝送するための情報源符号化、信頼性高く伝送するための通信路符号化を中心に、符号化の基礎を理解する。 <目標> ・情報量の概念が説明でき、実際に計算できる。 ・情報源のモデル化と情報源符号化について説明でき、具体的な符号化を行うことができる。 ・通信路のモデル化と通信路符号化について説明できる。	
			数値計算		<概要> この講義では、科学技術計算を行うために必要となる基本的な数値計算手法を学び、その理論的背景を理解するとともに、実践的な応用力を養う。 <目標> 数値計算におけるさまざまなアルゴリズムを理解し、それらをプログラミング言語 (Python、C言語、Javaなど) を用いて実装できる能力を身につけることを目指す。さらに、得られた計算結果を正確に解釈し、科学技術分野の具体的な問題解決に応用する力を育成する。	
			デジタル回路		<概要> デジタル回路 (論理回路) の基礎知識を習得し、組み合わせ回路、順序回路の論理回路の設計方法と応用について学ぶ。 <目標> ・論理回路の基本原理を理解する。 ・組み合わせ回路と順序回路の設計の基礎を理解する)。 ・アプリケーションに応じた論理回路を設計することができる。	
			電気電子回路		<概要> 電気回路では、抵抗、キャパシタ、コイルを含む回路について説明する。また、電子回路では、ダイオードやトランジスタの原理を説明し、その応用を解説する。 <目標> 簡単な電気回路と電子回路の動作原理を理解する。また、電気回路と電子回路の数学的な取り扱いと物理量の意味を習得する。	
			電子計算機Ⅰ	○	<概要> 電子計算機 (コンピュータ) の基本構成と基本動作を学び、演算、制御、記憶、入出力の各処理の基礎を学ぶ。 <目標> コンピュータの基本構成と基本動作を理解し、アセンブリ言語によるプログラミングの基礎を理解する。	
			オペレーティングシステムⅠ	○	<概要>本科目では、オペレーティングシステム (OS) の基本的な概念、プロセス管理とメモリ管理を解説する。Linuxがインストールされたマシンでシステムプログラミングを実習する。 <目標>1. OSの役割を理解する。2. OSの構成とプロセス管理とメモリ管理の機能を理解する。3. 各機能の実現法を理解する。	
			情報通信システム		<概要> 情報を物理量である信号に変換し、有線伝送路又は無線伝送路を経て、効率良く伝送する方法と、アナログ通信とデジタル通信における変調方式や雑音に対するそれらの影響について説明する。また、通信システムの最新技術についても解説する。 <目標> 信号と雑音の表現と解析方法、有線伝送路と無線伝送路、アナログ変復調方式とデジタル変復調方式、通信システムの構成と特徴をそれぞれ理解する。	
	コース専門科目	システム情報学	電子計算機Ⅱ		<概要> 電子計算機 (コンピュータ) の基本構成と基本動作を理解した上で、演算、制御、記憶、入出力の各処理の詳細を学ぶ。また、アセンブリ言語を通じて、コンピュータの動作についての理解を深める。 <目標> 演算およびメモリアクセスの高速化技術を理解する。プログラム実行時のハードウェアとソフトウェアの関係を深く理解する。	
			オペレーティングシステムⅡ		<概要>本科目では、オペレーティングシステム (OS) のファイルシステムと入出力制御、OSの実装例としてLinuxを解説する。Linuxがインストールされたマシンでシステムプログラミングを実習する。 <目標>1. OSの役割を理解する。2. ファイルシステムと入出力制御の機能を理解する。3. 各機能の実現法を理解する。	
			情報ネットワークⅠ	○	<概要> 計算機によるネットワークの利用目的を概観したのち、LANを用いたシステムの構成を理解する。 <目標> 情報ネットワークの歴史、現状、TCP/IPネットワーク、ネットワークアプリケーション、セキュリティなど、新たな情報ネットワーク技術の開発およびICTシステムの構築に応用できる知識を身に着ける。	
			情報ネットワークⅡ	○	<概要> 計算機によるネットワークを構成する基本技術、とりわけLANの実現技術を身に着ける。 <目標> デジタル伝送、ネットワークアーキテクチャ、プロトコル、イーサネットなど、情報ネットワークの動作原理を理解する。	
			データベース	○	<概要> インターネット上に構築された様々なアプリケーション、そこで扱われる大量な情報を効率よく管理するリレーショナルデータベースについて学習する。データベース技術の基礎として、リレーショナルデータベース操作言語 (SQL) の利用方法、データベースの設計理論、データベース管理システム (DBMS) の機能について解説する。 <目標> リレーショナルデータベースについて学習し、SQLの利用方法、データベースの設計理論、データベース管理システムの機能について理解する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		Web開発技術	○	<概要> 情報技術者として主要スキルの一つであるPHPを用いたWebプログラミングについて勉強する。 <目標> HTML、CSS、JavaScriptといった基礎技術を踏まえて、PHPを用いたアプリケーションの開発に慣れ親しむ。	共同
		システム開発I	○	<概要> 計画→設計→実装→テスト→保守からなるウォーターフォールモデルの工程のうち、主に計画と設計について講義する。中規模システムの開発に必要なとなる開発手法ならびにプロジェクトマネジメント手法全般の基礎知識を習得し、思考法を培うことを目的とする。 <目標> ・システム開発の上流工程(要件定義、設計)の基礎となる手法を理解し、活用できるようになる。 ・システム構築やソフトウェア開発のプロジェクトを効率的に管理する基礎知識を習得する。	
		システム開発II		<概要> 計画→設計→実装→テスト→保守からなるウォーターフォールモデルの工程のうち、主に実装とテストについて講義する。中規模システムの開発に必要なとなる開発手法ならびにプロジェクトマネジメント手法全般の基礎知識を習得し、思考法を培うことを目的とする。 <目標> ・システム開発において効率的で信頼性の高い実装を行うための方法論を理解し、活用できるようになる。 ・システム開発におけるテストの重要性を理解し、網羅的にテストを行うための方法論を実践できるようになる。 ・システム開発で使われる各種ツールについての理解を深め、活用できるようになる。	
		情報セキュリティ	○	<概要>本科目では、情報セキュリティにおける多様な脅威とその対策について体系的に学ぶ。 <目標> 1. 情報セキュリティの重要性を理解し、その必要性を説明できる。 2. 情報システムにおける主要な脅威と有効な対策を把握し、説明できる。 3. 暗号、特に公開鍵暗号の基本的な仕組みを理解し、簡単な例を用いて暗号化・復号の手順を実行できる。 4. 認証プロトコルの基本概念を理解し、その役割を説明できる。	共同
		情報システム実験		<概要> 電気電子回路とデジタル回路の実験を通して、計算機科学およびシステム情報学に関する知識を確認する。 <目標> 電気電子回路では、回路やその素子の性質や動作を理解し、測定装置等の機器の使い方を習得する。デジタル回路実験では、論理素子やフリップフロップの動作を理解し、組み合わせ回路や順序回路の設計、FPGAボードの使用方法を習得する。加えて、両実験のレポートを作成できる計画性や、実験結果を考察できる課題解決力などを身に着ける。	共同
	知能情報学	応用線形代数Ⅱ		<概要> 「応用線形代数Ⅰ」の発展的内容として、固有値・固有ベクトルの概念を中心に、行列の対角化、2次形式などの概念とその応用を理解する。また、プログラミングによる主成分分析や線形判別分析法を用いた演習を行う。 <目標> 線形代数の概念を理解し、データサイエンスなどへの応用などその意義を理解する。	
		ベイズ統計学		<概要> 本講義では、ベイズ統計の基礎を学んだうえで、機械学習との関連を学ぶことを目的とする。様々な確率分布の性質を知り、ベイズ推定によるモデルの構築方法を身に付ける。 <目標> 統計学の基礎を復習したあと、ベイズ推定の考え方、様々なベイズモデルの構築方法を学ぶことで、複雑なデータから洞察を引き出す力を養成し、機械学習との関連をイメージできる力を身に付ける。	
		ソフトコンピューティング		<概要> 本講義では、ソフトコンピューティングに含まれる4つの方式、与えられた教師データから入出力関係を学習するニューラルネットワーク、あいまい情報を取り扱うファジイ理論、報酬による試行錯誤学習に基づき目的を達成する強化学習、複雑環境下での最適解の探索を行う進化論的計算手法等を学び、コンピュータの知能化技術に関する知識を修得する。 <目標> 人工知能の一分野であるソフトコンピューティングについて理解することで、情報基礎に関する知識・理解力を養い、また情報通信技術にソフトコンピューティングを組み込み、運用するイメージを持つ力を身に付ける。	
		人工知能	○	<概要> 人工知能とは人間がもつ高度な情報処理機能を調べ、これを機械的に実現することを目指した学問分野である。本講義では、人工知能に関する基礎的事項を学ぶことを目標とする。また人工知能の応用分野についても解説する。 <目標> 最初に、問題を試行錯誤的に解くための探索法について学ぶ。その後、人工知能、特に機械学習を理解する上で必要な確率・統計について確認し、教師あり学習、教師なし学習の概念、学習モデルの評価方法、各種分類器の理解を深めるとともに、これらの応用システムについて理解することを目標とする。	
		画像処理	○	<概要> デジタル画像処理は、情報工学の中で最も重要な分野のひとつであり、産業や医学などさまざまな分野において必要不可欠な基本技術である。本科目では、画像のデジタル化、および2次元画像に対する種々の画像処理技法を解説する。 <目標> 画像のデジタル化に関する基本的な概念を理解する。幾何学変換や濃度変換、空間フィルタ処理、二値画像処理、空間周波数処理について理解し、具体的な実現方法を習得する。基本的な画像処理の各種手法を組み合わせることにより、目的の画像処理を達成する技術を身につけ、プログラミング言語で実装できる。	共同
		データ解析		<概要> この講義では、データの効果的・効率的な情報処理に焦点を当て、データ解析の発展的な技術を学びます。特に、データの正確な理解から導かれるデータの扱いと効率的なアルゴリズムの利用や大規模データの処理方法について深く掘り下げます。 <目標> データの深い理解、その処理に適切な処理の実装を行える力を養い、大規模データに対する高速で効率的な実装できる力を身につける。	
		最適化技法		<概要> 最適化とは、与えられた条件のもとで数多くの選択肢の中から最善のものを選ぶことであり、工学に限らず、日常生活や社会・経済などあらゆる分野で必要とされる技術である。本講義では、工学の様々な分野で求められる最適化技法について解説する。 <目標> 工学の様々な分野で必要とされる最適化について、数理解最適化とは何かを学び、その理論的基礎やアルゴリズムを習得し、工学的な問題に対して最適化技法を適用する能力を身につける。	

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	空間情報学			人工知能実験		<概要> 人工知能の深い理解とそのプログラミング技術の習得を目的とする。具体的には、（１）深層ニューラルネットワークを用いた実データを用いた予測モデル、画像識別モデルの作成を行い、各手法の評価を行うとともに改善方法を考える。（２）大規模言語モデルの実装を学び、自由課題設定による実践的なモデル構築を行う。 <目標> 人工知能技術の基本的な実装能力を養うとともに、大規模言語モデルを活用したシステム構築のための基礎的能力を養う。	共同
				地理空間情報インテリジェンス概論	○	<概要> 地理情報インテリジェンスは、地理空間データや衛星画像、社会統計データなどを分析して取得した情報で、地理的な問題を解決するために利用される。本講義では、地理空間データ分析の技術、また、国土監視、災害対応、環境管理などにおける活用技術について学ぶ。 <目標> 地理空間データ分析手法、パターン認識、トレンド評価、潜在的な脅威やリスクの評価、意思決定手法を身に付ける。	
				GNSS（衛星測位システム）概論及び演習		<概要> 本講義では、人工衛星を利用して地上の位置を計測するためのGNSS（衛星測位システム）の原理や高精度測位の手法、また、その利用方法について学ぶ。さらに、GNSSによる人や物の位置情報ビッグデータの解析や利用についても身に付ける。 <目標> 測位衛星の原理や測位の手法について理解する。高精度測位のための補正の手法についても理解する。また、位置情報ビッグデータの解析手法を身に付ける。	講義：16時間 演習：14時間
				リモートセンシング概論		<概要> 人工衛星を利用し、地球を観測する技術を衛星リモートセンシングといいます。本講義では、人工衛星に搭載されたセンサで、地球の表面から反射したり、自ら放射する電磁波を観測する原理について学ぶ。また、環境、災害、農業、海洋など様々な分野で利用方法についても学ぶ。 <目標> 衛星リモートセンシングの原理や種類、人工衛星の種類や利用方法を理解する。また、衛星データの入手や基礎的な解析手法を身に付ける。	
				マイクロ波リモートセンシング（SAR）概論		<概要> 衛星リモートセンシングのうち、マイクロ波を用いたSAR(合成開口レーダ)について学ぶ。本講義では、SAR衛星による観測の原理、SARインターフェロメトリの原理を学ぶ。また、環境、災害、農業、海洋など様々な分野で利用方法についても学ぶ。 <目標> SARの原理や種類、人工衛星の種類や利用方法を理解する。また、SAR衛星データの入手や基礎的な解析手法を身に付ける。	
				地理情報システム（GIS）概論		<概要> 地理情報システム(GIS)は、地理空間情報に関するデータを管理・加工し、地図上に可視化して分析や判断を行う技術である。本講義では、地理空間データの構造や処理手法、また、様々な分野の利用方法について学ぶ。 <目標> 地理情報システム(GIS)の原理、利用方法を身に付ける。また、GISソフトの使い方や解析方法を身に付ける。	
				宇宙工学概論		<概要> 本講義では、宇宙開発事業に関する知識、地球大気圏外を飛行する宇宙機（ロケットや人工衛星、宇宙ステーションなど）の理論や技術、スペースデブリや宇宙法について学ぶ。 <目標> 宇宙工学における各分野における知識を養うとともに、宇宙開発事業における課題や最新の技術動向を理解する。	
				ジオ・インテリジェンス実験		<概要> 宇宙利用や地理空間データ利用に関する新規技術や宇宙ビジネスの創出を目指し、チームによる課題抽出やアイデアの創出、サービス開発に関するプロジェクト実践を経験する。 （オムニバス形式／全15回） （3 長井 正彦／6回） 1 ジオインテリジェンス実験の概要 2 地理・空間データを利用した社会課題の解決手法 7,8 グループに分かれた社会課題のテーマ選定 14,15 成果発表（共同） （24 和田里 花／4回） 3,4 衛星データおよびオープンデータの取得と処理 14,15 成果発表（共同） （20 GERDPRASERT THANAWIT／4回） 5,6 衛星データ解析環境の構築 14,15 成果発表（共同） （21 江口 毅／7回） 9～13 ミニプロジェクトの実施とサービス開発 14,15 成果発表（共同） <目標> ミニ・プロジェクトを通した課題抽出やアイデアの創出、サービス開発の方法や知識を養う。	オムニバス 共同（一部）
	人間情報学			マルチメディア基礎		<概要> マルチメディアの要素である色、文字、音声、画像をコンピュータで扱う基礎的な情報処理技術について学ぶ。 <目標> ・マルチメディアに関する要素技術について理解できる。 ・基礎的なマルチメディアコンテンツを制作することができる。	共同
				マルチメディア応用		<概要> コンピュータグラフィックスの基礎的な知識を学んだ上で、グラフィックスプログラミングを活用したアプリケーションを作成する。 <目標> グラフィックスプログラミングを活用したアプリケーションを作成できるようになる。	共同
				デザインのための認知科学		<概要> 人間中心設計を志す情報系学生に向けて、認知科学の基礎知識を習得し、それをデザインに活かすための思考法を養う。人間の知覚、記憶、思考、学習といった認知過程を科学的に理解することで、より効果的で使いやすいインタフェースやシステムを設計するための基盤を築く。 <目標> ・人間の認知過程（知覚、記憶、注意、思考など）のメカニズムを説明できる。 ・認知心理学、人間工学、神経科学などの関連分野の基礎知識を習得できる。 ・認知負荷の概念を理解し、ユーザーに負担をかけないデザインができる。 ・ヒューマンエラーの原因を分析し、それを防ぐためのデザインができる。 ・ユーザー中心設計の考え方を実践し、ユーザーのニーズに合ったインタフェースを設計できる。 ・ユーザービリティ評価の方法を理解し、デザインの質を評価できる。	

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
				ヒューマンコンピュータインタラクション		<概要> この授業では、人間とコンピュータのインタラクションに関する基本概念を理解し、ユーザインタフェース (UI) およびヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) の具体的手法、設計理論、評価方法などについての基礎知識を習得する。 <目標> 人間とコンピュータのインタラクションに関する基本概念を理解し、具体的な手法や設計理論、評価方法についての基礎知識を身につけることを目的とする。また、音声や画像などを用いた人間・コンピュータ間のインタラクション、さらにそれらを統合したマルチモーダルインタラクションの具体例や、今後の動向についても習得できる。	
				感覚知覚情報学		<概要> 人間は目、耳、鼻、口、皮膚といった感覚器官を通じて外界の情報を受容し、それを基に知覚世界を構築する。しかし、感覚器官が取り込む情報は外界そのものではなく、限られた物理的刺激を基に脳が再構築した結果である。本講義では、感覚器官の生理学的機能と、それに基づく知覚情報処理メカニズムについて概説する。 <目標> 人間の主要な感覚器官および知覚システムの構造と機能を理解し、感覚・知覚の情報処理メカニズムを理解する。感覚・知覚の特性を理解し、それらの科学的背景や応用可能性について理解する。	
				音響情報学		<概要> 自然音や環境音、音声、音楽などのさまざまな音を対象として、聴覚、空間音響、環境音、電気音響、音デザインやそれらの情報処理方法について講義する。 <目標> システム実現の基礎となるデジタル信号処理、聴覚の仕組み、音の大きさ・高さ・音色・空間性、騒音・振動、オーディオ、製品音・サイン音やそれらの情報処理技術について理解する。	
				感性計測		<概要> 人間の感性情報処理について計測する感性計測方法として、心理学的方法、心理物理学的方法、生物学的方法について講義する。 <目標> SD法などの言語による質問に対する反応の計測、視覚的印象や聴覚的印象などの行動観察による計測、心電位、筋電位などの心の状態に応じて起こる脳や身体に生じる変化の計測について理解する。	
				ユーザエクスペリエンス概論		<概要> ユーザーエクスペリエンス (UX) デザインの基礎概念を学び、魅力的で使いやすい製品やサービスを設計するための知識とスキルを習得する。ここで、UXデザインとは、ユーザーのニーズや行動を深く理解し、製品やサービスとのインタラクションを最適化することを目指す設計手法のことである。 <目標> ・ユーザーエクスペリエンス (UX) の概念を説明できる。 ・ユーザー中心設計の考え方を実践し、ユーザーのニーズに合った製品やサービスを設計できる。 ・ユーザーリサーチの方法 (インタビュー、アンケート、ユーザビリティテストなど) を理解し、実施できる。 ・ユーザビリティ評価の方法を理解し、製品やサービスの使いやすさを評価できる。	
				社会調査法	○	<概要> 社会調査の基礎的な考え方と手法を学び、情報系の視点から社会現象を科学的に分析する能力を養う。特に、情報技術を活用したデータ収集、分析、可視化の方法に焦点を当て、社会調査の設計から結果の解釈までの一連のプロセスを習得する。 <目標> ・社会調査の目的と種類を説明できる。 ・調査計画を立案し、適切な調査方法を選択できる。 ・アンケート調査、インタビュー調査など、様々なデータ収集方法を理解し、実践できる。 ・統計学の知識を応用し、データを分析し、結果を解釈できる。 ・社会調査における倫理的な問題を理解し、調査を実施する上で注意すべき点を説明できる。 ・社会調査の結果を基に、報告書を作成し、効果的に発表できる。	
				人間情報学実験		<概要> マイコンを用いた電子回路の構成方法とプログラミング技法ならびに人間情報学分野の授業科目における主要なテーマを対象とした実験を実施し、探求心と実践力を養う。実験、データの収集と分析、結果の考察、そして報告書の作成を通して、人間情報学分野における実験プロセスを体系的に学ぶ。 (オムニバス形式／全15回) (7 長 篤志／3 回) 1～3 ガイダンス、マルチメディア実験 (16 相田 紗織／2 回) 4, 5 感覚知覚情報学実験 (13 王 元元／2 回) 6, 7 HCI実験 (11 佐伯 徹郎／2 回) 8, 9 感性計測実験 (10 水土 嘉樹／6 回) 10～15 マイコン実験 <目標> ・人間情報学分野における知識を実験を通して理解する。 ・実験プロセスの構築方法を習得する。 ・実験データを適切に収集し分析、解釈する能力を身につける。 ・論理的で明確な実験報告書を作成できる。 ・チームで協力して課題を解決する能力を高める。	オムニバス
その他				PBL入門		<概要> 企業および地域活動に必要となるヒューマンスキルについて学ぶ。 <目標> ・与えられた諸課題について分析、検討するための手法を習得する。 ・課題解決に向けてグループによる合意形成や検討手法を身につける。 ・課題に対する検討結果をまとめ、説明できるスキルを身につける。	
				情報と職業		<概要> 情報化技術 (Information Technology: IT) が社会をどのように変えてきたのか、それに伴いビジネスがどのような変化を遂げてきたのかについて学ぶ。 <目標> ・情報化 (デジタル化) により一般社会および企業のビジネス環境がどのように変化したのかを理解する。 ・情報化が一般社会に与えた影響について、ビジネス面だけでなく日常生活についても理解する。特に、情報化の進展に伴い顕在化した犯罪や社会問題について正しく理解する。 ・情報化の持つ善悪両面について理解する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	インターンシップA		<概要> 実習時間30時間で、企業もしくは地方自治体等の現場における就業体験を通して、大学で学ぶことの目的を明確にし、また、職業選択に活かすことを目的とする。 <目標> ・仕事に対する理解とともに大学における学習との関係についても理解が深まる。 ・インターン先でチームを組んで業務を推進する事への適応能力が身につく。 ・インターン先での経験をまとめて他者に分かり易く説明できる。 ・企業等での国際化について理解する。	
	インターンシップB		<概要> 実習時間60時間で、企業もしくは地方自治体等の現場における就業体験を通して、大学で学ぶことの目的を明確にし、また、職業選択に活かすことを目的とする。 <目標> ・仕事に対する理解とともに大学における学習との関係についても理解が深まる。 ・インターン先でチームを組んで業務を推進する事への適応能力が身につく。 ・インターン先での経験をまとめて他者に分かり易く説明できる。 ・企業等での国際化について理解する。	
	テクニカルコミュニケーション I (ECE)		<概要> TOEICは英語でのコミュニケーション能力をはかるための1つの「ものさし」にすぎないが、工学部を卒業し、国内外を問わず、技術者、科学者、研究者、等々として就職する際、企業が英語運用能力の証しとして最も広く参考にしていく資格として、TOEICが利用されているのが現状である。本コースは、TOEIC450点未満の工学部生のために、この「ものさし」を利用して、英語コミュニケーション能力の基礎固めを、主にリスニングに重きを置いて、着実にTOEIC450点以上相当の英語力を習得することを目指す。そのトレーニングを通じて、自律した学習者となることを目指す。 <目標> ・英語でのコミュニケーションを中心とし、TOEIC 450点 相当以上の実力とスコアを取得することを目指す。 ・自分の学習を自分でコントロールする、自律学習者へと成長する。	
	テクニカルコミュニケーション I (BCG-1)		<概要> グローバルな舞台でエンジニアとして将来活躍したいと考える工学部生にとって、国際ビジネスの現場で使われている状況別の基礎英会話力習得は、大変有益なスキルである。また、日系企業が採用・人事の際に、最も語学力評価の基準として導入しているのがTOEICスコアであり、TOEICでは、ビジネスに関連した語彙・表現が頻出である。従って、ビジネストピックを通じて英語を学ぶことは、TOEICスコアアップの一助になるとともに、参加型協働学習に取り組むことにより、能動的コミュニケーション力を身に付けることができる。更には、英文ライティングのルールを理解し、基礎的なEmailや英文Essay作成にも取り組むことで、研究室配属や大学院進学時に必要とされる英文アカデミックライティングの基礎力を涵養する。 <目標> ・自律学習が出来るよう、基礎ビジネス英会話力の習得を目指す。 ・基礎的なビジネスEmailライティング力習得を目指す。	
	テクニカルコミュニケーション I (ESE-1)		<概要> 英語での本物の技術コミュニケーション能力を育成する。以下の分野での主要なスキルを開発することに重点を置く：グループワーク、データの記述に焦点を当てた口頭プレゼンテーションスキル、電子メールや電話会話などの文章および口頭コミュニケーション文脈のための言語、科学的概念の説明と説明、およびグループワーク、自己評価、および同僚レビューなどの対人関係の発展。 <目標> 一般的な技術的能力に加えて、学生は次の実践的なスキルを身に付ける：現在の研究について話す、数字や数学的操作を扱う、科学的プロセスを説明する、技術製品を宣伝する、技術的プレゼンテーションを行う、および科学的プロジェクトを要約する。	
	テクニカルコミュニケーション II (BCG-2)		<概要> 英文エッセイの構成習得やライティングの演習を通じて、基礎的なアカデミックライティングのスキルを上達させる。この科目は実務経験（翻訳）のある教員による授業科目であり、実社会で実際に使用される英語（および日本語）の状況を踏まえた上で、実践的なトレーニングを行う。 <目標> ・ビジネスやアカデミックな文脈におけるグラフ・傾向描写といった基礎テクニカルコミュニケーションスキル ・基礎ビジネスemailライティングスキル ・基礎アカデミックライティングスキル（英文エッセイライティングスキル） ・受講生の総合的英語力をTOEICにおいて100点以上の向上を視野に入れた語学力の育成	
	テクニカルコミュニケーション II (ESE-2)		<概要> 技術英語コミュニケーション能力を使用して、エンジニアリングの現代的な問題について学び、議論する能力を育成する。次の分野での主要なスキルの開発に重点を置く：グループワーク、プロジェクト分析に焦点を当てた口頭プレゼンテーションスキル、フィールドワークやオンラインミーティングなどの現実世界の文脈での言語、科学的概念の説明と説明、そしてピアレビューなどの対人関係の発展。 <目標> 技術コミュニケーションスキルを基にした、一般的な議論のレトリック、ディベート戦略、事実調査、プロジェクトの分析/評価、トレンドの予測、およびキャリア計画を可能とする。	
	テクニカルコミュニケーション II (Academic Writing)		<概要> 技術コミュニケーションの書面および口頭のスキルについて紹介する。科学技術の学生が国際的な職場で英語を使用してコミュニケーションを取る（または内部で行う）ために適切な基本的な学術的な文章執筆および口頭コミュニケーションを紹介する。 <目標> 技術英語のコミュニケーション能力を向上させる一方で、ブレインターミディエイト（CEFR A2）レベルにおいて、口頭および書面の学術的な形式に対する認識を高める。学術目的のための書面英語の規範に慣れ、技術コミュニケーションのジャンル内で適切に自己表現する能力を身につける。	
	情報学日本語		<概要> 大学で知的活動を行うために必要な学術的な日本語を学ぶ。専門に関する講義を受けたり、発表をしたり、レポートを書いたりするために必要な日本語力を身に付ける。 <目標> (1) 論理的思考や批判的思考、学術的な表現を身につける。 (2) 情報学の論文で頻出する用語を理解して使う。 (3) 他者にその理解を伝えるために、はっきりとわかりやすく、レポート（事実と意見の報告）を書く。 (4) テーマに関連する資料を引用しながら、他者の意見と自分の意見とを区別して書く。 (5) 情報学の論文の構造を理解し、正しい形式で論文、レポート、研究計画書を書く。	
	テクノロジー×アート		<概要> デジタルやアナログのサイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、数学と人間性・人文学領域が自由に融合するSTEAMの新分野を切り開くことができるイノベーション人材の育成を目指す。社会課題を先端者が紹介し解決を試行するPBL授業を開講し、「真にアクティブ、かつ、効果的に体得する授業」を、新受講生と講師、外部の参加者全員により、有意義な授業を創り出していく。 <目的> デジタル技術を活用する創造人となることが目標。デジタル社会を、創り、表現し、振り返り、自らの進むべき概念の持ち方を、自主的な経験を通して学ぶ。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ものづくり創成プロジェクト		<概要> 本講義は、学生自らが興味を持ち提案したプロジェクトを実施するPBL (Project Based learning) 方式の授業である。これまでの講義で修得した基本的な概念や専門的な知識を基に、メーカー開発・市場創出実務経験のある教員が支援し、課題に対する問題解決能力を身につけることを目標とする。 <目標> ・目標を達成するためにプロジェクトをマネジメントできる。 ・プロジェクトに基礎科目や専門科目で習得した知識・技能を活かすことができる。 ・協調性やコミュニケーション能力を相互に高め、チームとして効率的に仕事を進めることができる。 ・成果をまとめて発表することができる。 ・PDCAサイクルを実施しながらプロジェクトを遂行できる。	
	情報処理技術者資格認定		<概要> 情報技術者資格取得者に対して単位が与えられる。資格取得した試験のレベルに対応した評点を与える。 <目標> ・基本情報処理技術者試験もしくは応用情報技術者試験に合格するレベルの知識を身に着ける。 ・基本情報処理技術者試験もしくは応用情報技術者試験受験に関心を持つ。	
	特許法		<概要> 知的財産制度の全体像を解説するとともに、企業における知的財産権の創造、保護及び活用プロセスを解説する。特許制度とは、「発明の保護及び利用を図ることにより、発明を奨励し、もって産業の発達に寄与することを目的とする（特許権法一条）」発明に関する特別法である。この授業では、この特許法を解釈し、特許制度に関しての法律の理解を基礎とし、特許権の権利の発生から消滅までの権利の一生の解説を行う。 <目標> ・特許制度に関わる法制度を理解する。 ・特許法の意義とその趣旨を理解する。 ・特許制度について事例や演習を解釈しながら、実践的な能力の育成を目指す。	
	国際実習Ⅰa		<概要> 長期休業中に2週間程度、海外の交流校等で実施される語学研修プログラムの一つに参加することを中心とした内容である。プログラムの内容は、語学習得だけでなく、派遣先での技術見学や専門講義の聴講、受入大学学生との交流などである。特に、プログラムの一部に工学的な体験を組み込むことにより、海外における工学分野の現状を把握し、グローバル技術者への動機づけを行う。 <目標> 語学習得だけでなく、工学・科学の内容を含むもので、グローバル技術者の意識付けを狙うものである。また、現地学生と交流が促進され、異文化理解が深まる工夫がなされたものであり、修学への動機付けに繋げることを狙いとしている。	
	国際実習Ⅰb		<概要> 長期休業中に4週間程度、海外の交流校等で実施される語学研修プログラムの一つに参加することを中心とした内容である。プログラムの内容は、語学習得だけでなく、派遣先での技術見学や専門講義の聴講、受入大学学生との交流などである。特に、プログラムの一部に工学的な体験を組み込むことにより、海外における工学分野の現状を把握し、グローバル技術者への動機づけを行う。 <目標> 語学習得だけでなく、工学・科学の内容を含むもので、グローバル技術者の意識付けを狙うものである。また、現地学生と交流が促進され、異文化理解が深まる工夫がなされたものであり、修学への動機付けに繋げることを狙いとしている。	
	国際実習Ⅱa		<概要> 長期休業中に2週間程度、海外の交流校等で実施される技術研修プログラムの一つに参加することを中心とした内容である。特に、現場調査、実験実習等を主体とし、専門領域におけるコミュニケーションスキルを活用する。 <目標> 4年生までに習得したテクニカルコミュニケーション能力を活用して、海外で実践することで、語学力に対する自信を身につけることを狙っている。また、海外企業で働くことの意識付けをし、専門分野におけるより高度な語学力およびコミュニケーション能力の習得に対する動機付けとなることを狙いとしている。	
	国際実習Ⅱb		<概要> 長期休業中に4週間程度、海外の交流校等で実施される技術研修プログラムの一つに参加することを中心とした内容である。特に、現場調査、実験実習等を主体とし、専門領域におけるコミュニケーションスキルを活用する。 <目標> 4年生までに習得したテクニカルコミュニケーション能力を活用して、海外で実践することで、語学力に対する自信を身につけることを狙っている。また、海外企業で働くことの意識付けをし、専門分野におけるより高度な語学力およびコミュニケーション能力の習得に対する動機付けとなることを狙いとしている。	
卒業論文	卒業論文	○	<概要> 社会の動向に注意を払い、社会が求めている知識・技術を身に付け、そして研究開発の場に身を置くことでその方法その他を学び取り、持続的な問題解決能力を養う。また、論理的に思考しその思考過程と結果を他者に分かりやすく口頭及び文書で表現する能力及び国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を養う。 <目標> 「国際性」、「理系基礎科学に関する知識・理解と応用力」、「情報基礎に関する知識・理解と問題発見力および問題解決能力」、「情報専門知識の運用力」、「プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力」、「課題解決力・計画力」、「倫理観」を総合的に養う。	